

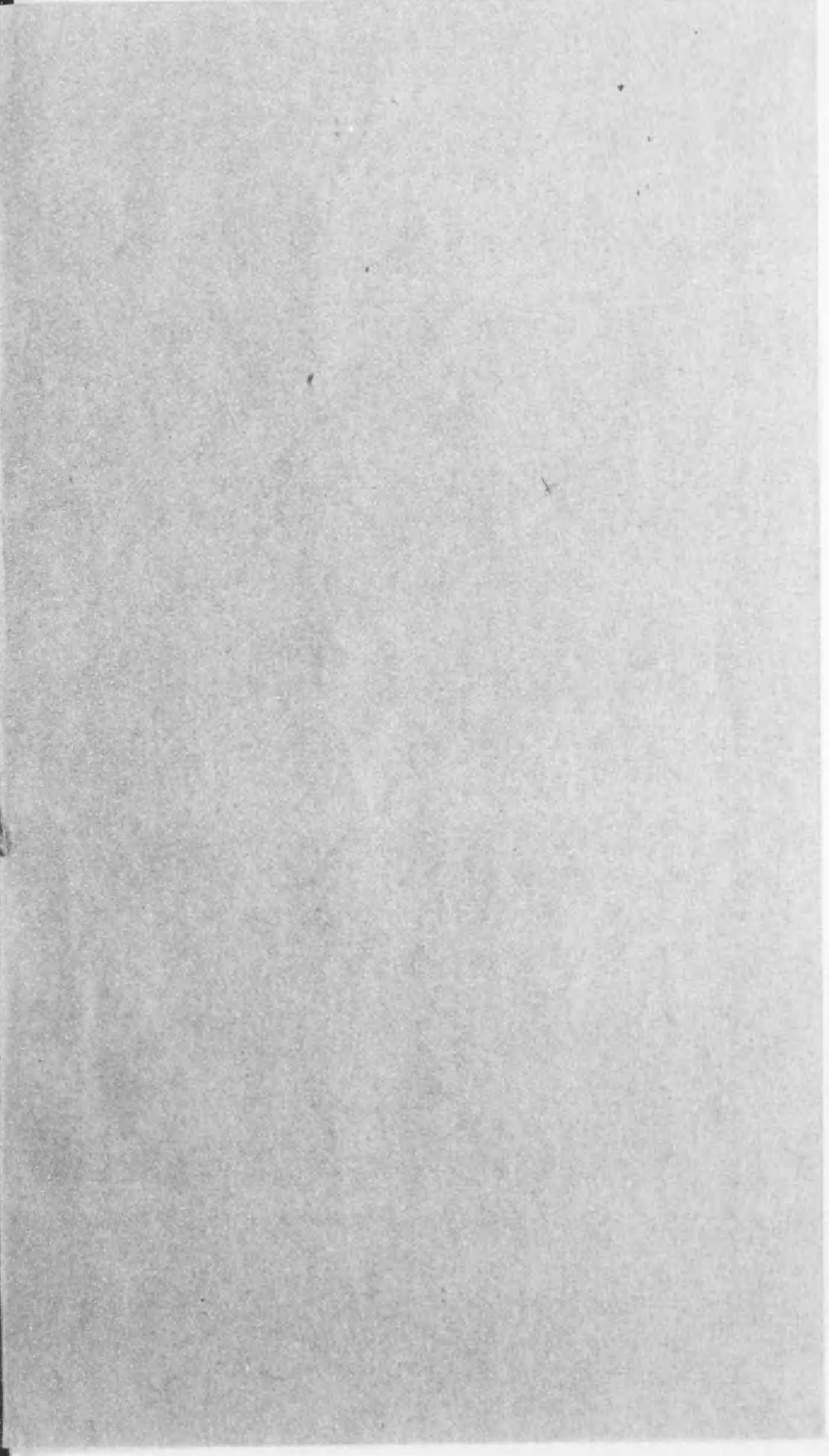
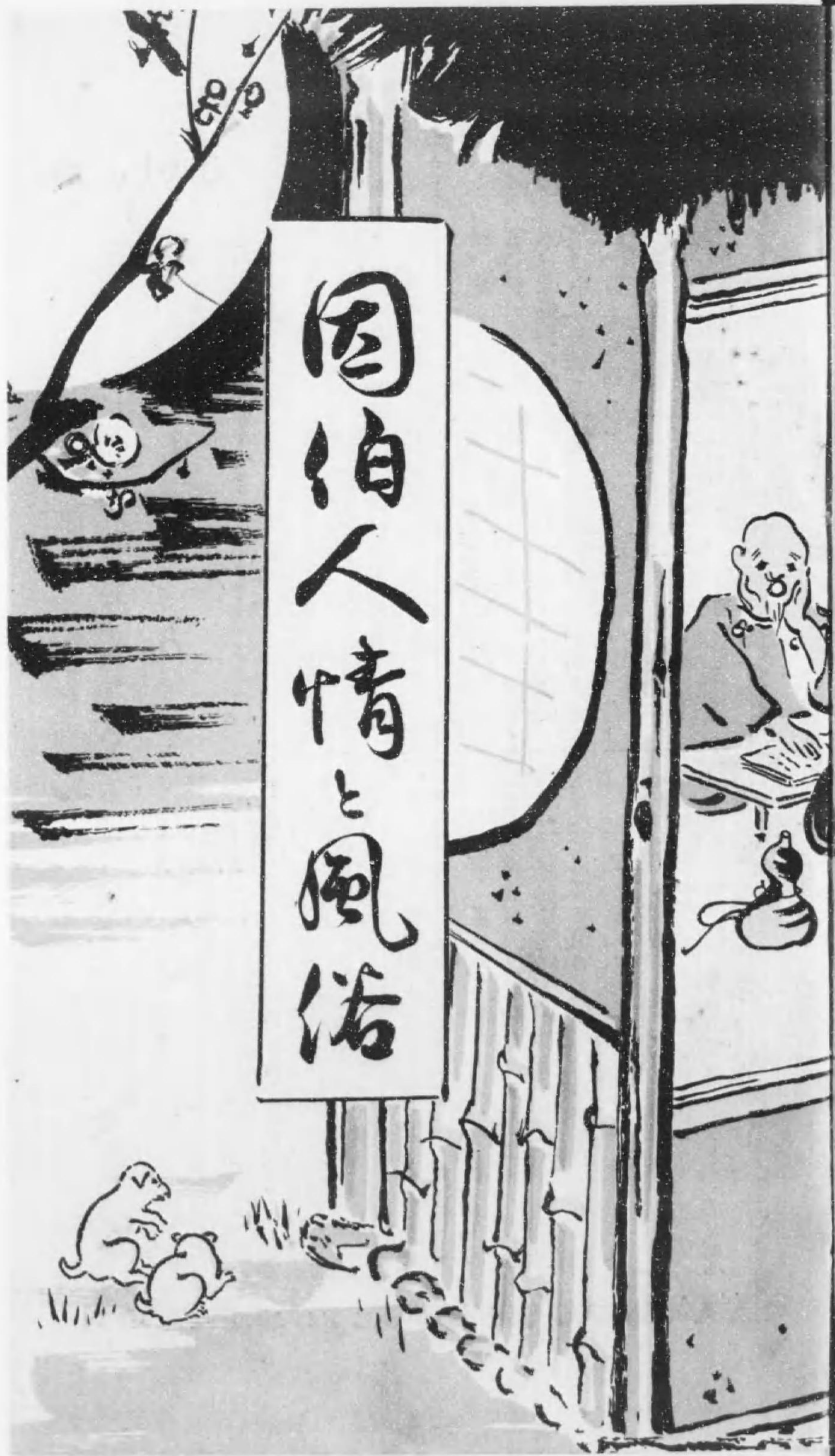
524

546



始





輝光の史國
著政布岡松

伯耆民談記

發賣元 横山敬次郎書店
鳥取市上魚町(大工町筋)
振替大阪四貳六八番
電話 三〇九番
鳥取縣各書店に
あり

原本拾五冊を縮刷合本せる

本書は寛文二年の筆録にかゝり單身因伯山野を跋躑し到る處の古蹟、社寺、舊家を訪ひ民間口碑傳説を詳録すこれ崇高なる大努力の結晶である。由來を詳述せる一大通史である叙事平明引照的確論斷また明快を極む苟も我が縣下國史につき正確なる智識を得んと欲する人は缺くべからざる好著である。

一、郷土スケッチ……………	一	十二、縣人は無慾無策だ……………	五九
縣人ノ氣質……………	一	十三、出稼人の見た鳥取市の側面……………	五九
黨争ノ弊……………	一	十四、因伯武士道の氣風……………	六三
今ノ人物……………	一	十五、治水治山……………	六六
宗教一班……………	一	十六、鳥取縣下名木と大樹……………	六九
二、鳥取の卷……………	五	十七、裏日本の美人系から漏れたか……………	七二
三、米子の卷……………	六	十八、因州因幡の民謡……………	七九
四、境の卷……………	六	十九、同名の村……………	八二
五、倉吉の卷……………	六	二十、鐵道沿線より見たる風俗人情……………	八三
六、本縣出身者と縣人……………	六	二十一、訴訟は因幡より伯耆が多い……………	八五
七、中心人物と團結力……………	六	二十二、因幡と伯耆人氣風の相違……………	八六
八、縣民の努力を……………	六	二十三、鳥取縣のみやげ物……………	八六
九、鳥取式と米子式……………	六	二十四、鳥取の書肆今昔物語……………	八六
十、團栗の脊くらべ……………	六	二十五、因幡の奇習……………	八九
十一、此風習は良くない……………	七	二十六、傘踊……………	九〇

もくろく

因幡史談

印刷中

◆圖書館、青年會、文庫參考書

多數仕入居り候間御用命願上候

鳥取市 横山書店

中學・商業
女學校程度

中等教科書販賣

◆御便宜郵便切手代用取扱

(新本ナレバ拾圓以上二候一度使用シタルモノ)

一年程度	(十餘冊)	(四圓)	送料五拾四錢
二年程度	(十餘冊)	(四圓)	送料五拾四錢
三年程度	(十餘冊)	(參圓五拾錢)	送料五拾四錢
四年程度	(十餘冊)	(參圓)	送料五拾四錢
五年程度	(十餘冊)	(參圓)	送料五拾四錢

◆一部賣トシテハ國語漢文類ハ二十錢地理、歴史、英語、博物類ハ四拾錢ノ割ニ送金被下度一冊送料六錢加送願上マス

發送所

鳥取市上魚町(大工町筋)
振替大阪四貳六八番
電話參〇九番

横山改次郎書店

因伯人情と風俗

因伯史話會編

一、郷土スケッチ

故郷はよるもさわるも茨の花

俳人一茶はあれほど家庭の苦しみに喘ぎ悶えたけれど、やはり故郷を戀ひ慕つた。

見限りし故郷の櫻咲にけり

として静かにその故郷に眠つたのである。

また「石をもて追るゝごとく……」ふるさどを出た詩人石川啄木も

汽車の窓

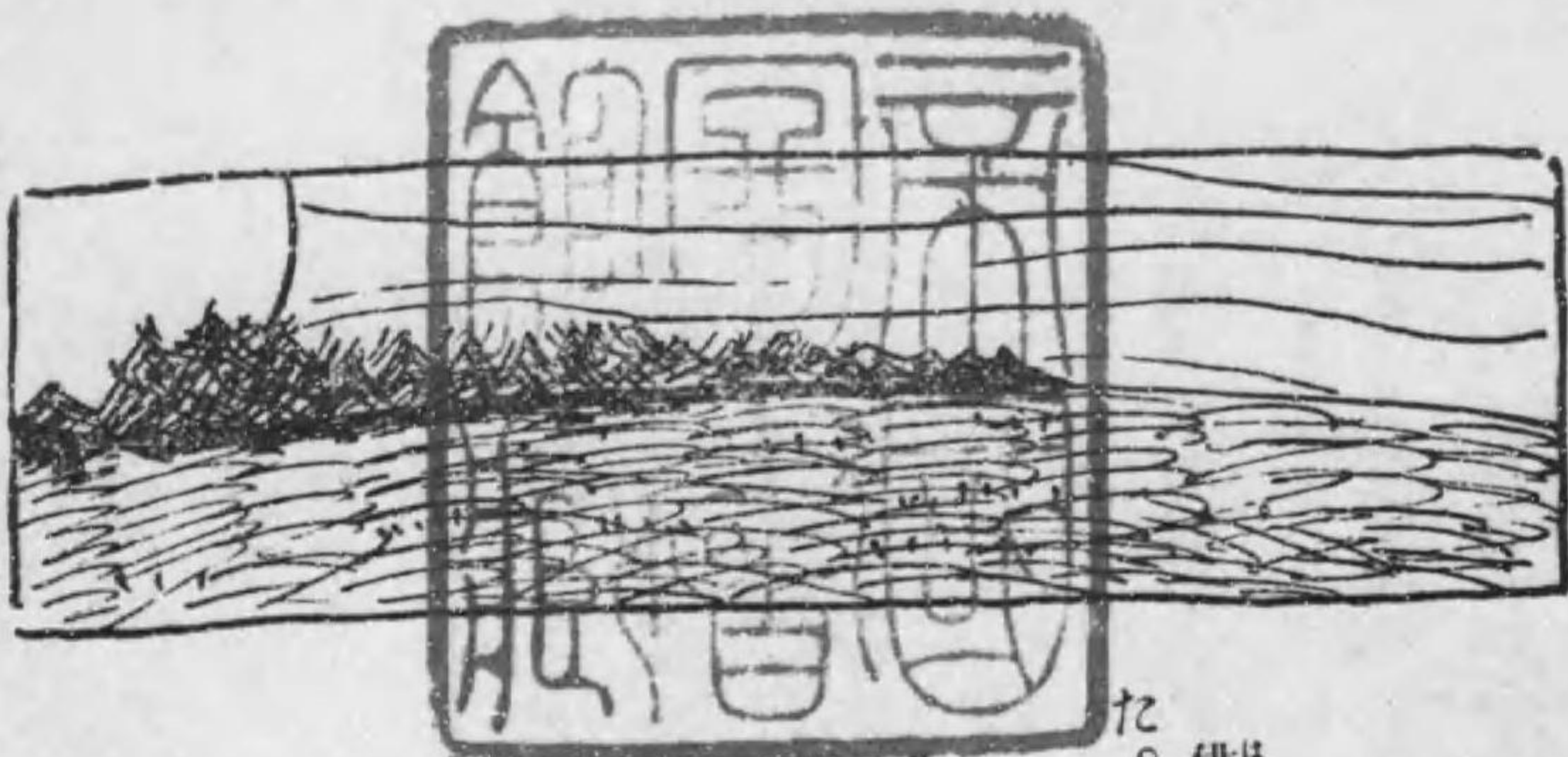
遙かに北にふる里の山見え來れば

襟を正すも

ふるさとの山に向ひて

言ふことなし

ふる里の山はありがたきかな



大正
15.12.2
内交

と歌つた。

二

あゝ郷土！故郷を持つことはいかに楽しい慰めと希望とが湧くか。假令自分は、社會苦生活苦、淫蕩な享樂、誇張された文化、眩惑された光のごよめき、爛れた歡樂、暗い呻きに、懊惱と懷疑に喘がねばならない都會に棲み、遂には絶望の淵まで進まうとした時でも故郷を想ふとき、その苛ら立つた變態的な心を、甘い慰めの搖籃の夢の世界に導く。

あゝとまれ生れし故郷は永劫の懐しい心の憧憬でなくてなんであらう。

我が郷土鳥取詩人生田春月は歌ふ。

窓邊の柳ははやも芽ぐみ

そよ風ほのかに春を告げる

あゝ故郷はいかになりし

我が父母はいかにおはす

遙けき都にひとり住みて

あけくれ書には眼をそゝげと

おもひは通ふあゝ故郷

その故郷なつかしの家

と。

524-546

我が郷土は實に中國連峰の峻峻と、北風に怒る日本海に夾まれた暗鬱な氣候の、そして交通不便な小さい縣のそれであるけれど、その主要な町々の富、人情、風俗などのさまざまを、淺くともあらゆる方面から觀察し、忌憚なくざつくばらんに解剖して見ることは、即ち忘れ得ぬ愛郷の心に外ならない

先づ我が鳥取縣の氣候を云ふならば概して陰鬱である、廣茫限りないシベリヤの野から、或は朝鮮のそれから襲ひ來る低氣壓は必ず中國山脈にぶつかり、我が山陰道へ降雨となつて浴せる、それは殆んど毎日の如く吹く風は弛く捲つて暗雲天を覆ふといふ有様、最も甚しいのは毎年の九、十月頃で、連日の豪雨に度々の出水の恐怖に見舞はれ、梅雨期の頃など、處々に怪火の燃えさうな鬱陶しさには又相當になやまされる、其の上冬季なども轟々たる物凄い風は、海嘯のやうに雪を誘つて山陰の地を埋めるのである。

斯様な眞に以て有難くない天の恵みを受けなければならぬ原因は勿論地勢の關係であるが、人口五十萬を抱擁せる我が縣には海拔六千尺の大山を初め四千尺以上のもの六山を有し、又河川にも日野川

三

の流域二十里を初め五里以上のもの六川を數へる、如何に我が縣に峻峻なる高山と河川の多いのによつて降雨と水害の屢々なるを知るに難くない、昔の人國記を見ても民族の様子がよくわかる、因幡に就ては、此國は北海を受くるといへ南に山深し、並の國よりは立ち籠りたる國である。民俗海濱と山谷と變異があるといふて本文には當國の風俗は八上、知頭、邑美の三郡は實にして、而も勇あつて約を變せずといひ、高草、氣多(現氣高郡)法美、巨濃(現岩美郡)の數郡は倭にして邪智がある、武士は利慾に拘り得のつく方に従ふ風がある。一國の内に此の様に風俗の變誠に天然自然の理なりと云つて居る。よい方もあれば悪い方もあるごちらに團扇を擧げてよいか。

伯者に就ても當國の風俗すべて虚實相半すと貴人に交つて己を省みて善心を生ずといつても、其人を離れては、又悪心に豹變するとは大變である。兎角迷闇の地に居て定る心終になさない、今の世下々の諺に物を着手しても怠りやすきを三日坊といふ、此國の風から始まると知つて勤めず、勤めても怠るは勇氣不足な故である。縣人の氣性は憂鬱熱居で、明るい飛躍的な、活氣に乏しく、所謂自然のこうした環境に支配されたではなからうか、だがその中に殊更に美しく云へば、物に動じない沈着と冷靜な理性と、潜在されたるねばり強い力を有してゐるとも云へる、さう實は提灯も持ちたいけれど、而し大體消極的で活動力を否定し、いつまでも沈視跼蹐な生活に飽きなく見えるでは、他から屢々、因循姑息で懶惰な生活を夢みる非活動な人間共と批難されても致方がないとも思はれる。

そこで斯うした氣候と人心によつての縣の生産は如何といふに、先年縣の調査せし處によつて見ると。

米は七十万石農産三千五百九万圓○蠶業二千八百二十万圓○工産千三百三十二万圓○林産八百二十四万圓○水産二百七十三万圓○畜産百五十二万圓○鑛産九十七万圓總額九千十萬圓

となつてゐてやはり農産、蠶産が首位を占めてゐる。鑛業は不振である家内工業を盛にしたい農工藝品に遜色がある以て商工業の不振を證明してゐるわけだ。最も度々洪水に見舞はれる地方として、随つて工業などの隆起しない理由もあるけれど、然らばさてこの根本の緊急事業たる治水の問題に縣民どれほどの成算あり熱心があるか。假令それを有してゐるとしても然る後の工業など起すべきの計畫がどれほどあるか。又水害復舊費に要したる負債一千數百萬圓あるを劈頭一番考慮してゐるだらうか。それは兎も角として、いま工業としては、各種企業の原動力としての電氣事業、縣面積の七割を占め二十三万町歩の豊富なる山林の利用、因伯牛として全國に聞える畜産の増殖、生産の最も多い蠶業を加工しこの製糸事業、土佐紙とその品質に於て競ふ良好なる製紙事業の擴張等等、詳細に調査し指摘するだけの、若輩たる筆者に見識を持たないが、とまれ空しく埋没に委せる有利有望なる多くの事業があらう。「叩けよ。然らば開かれん」である。いつまでも無能で無責任で、そして上司の御機嫌伺の手段とする縣のお役人さまの御指導に頼らずに、即ち偷安的依賴的な精神より脱して勇往躍進

するの氣象を持ちたい。

六

いま縣下の工業状態を一瞥するに、全體を通じて製糸、織物、製紙、其他工場と名のつくものは約二百を算し、七千人の職工が働いてゐるが、これとても製材及小規模の印刷所を加へてのことであるし、また銀行、運輸、倉庫其他の合名、合資、株式の會社を二百五十を數へる。それ等總積立金四百五十三万五千五百三十圓、一會社當り一万八千圓、これとても工場と同じく小規模の販賣、飲食物製造會社を合してのこであるから、いかに縣の工場、會社の微々たる現状を推察することが出來よう。然るに實はこれ等を全部縣人の努力の足らざる所以だとは云へないことは、縣外に於て相當大工場大會社を持つて活動してゐる縣人が多くあるが、これは勿論氣候の悪い交通不便な本縣に存住し難く、止むを得ず活動する天地を縣外の活舞臺に求めて活動努力してゐるのであるが、その外に一の理由として、實は政黨者流の跋扈甚しく互に反目軋轢し、黨同異伐偏狹固陋の奸策を弄し下らぬ野望の結果郷土振興公益事業も、爲めに屢々阻害停頓を來さしめ、遂に他府縣に止むを得ずあたら有望事業を遷さざるを得ぬといふ一事である。

こゝに一つの實談を書いて見よう。

それは本縣の出身にして大阪實業界に知られたる〇〇〇〇氏に就いてある。氏は惠まれざる我が縣の發展に貢献し盡力するは、郷土に生を享けたる縣人の必然的の奉公的義務であらねばならぬとい

ふ愛縣心の人である。そこで我が縣は到底商工業地として大活躍せんには地勢、氣候、交通の上から多くを望めない、而し幸なるには本縣の至るところに温泉の噴出を見、これを適當利用すれば將來發展の可能性あるのに着眼されたので、早速東洋第一のラヂウム温泉を持つ三朝の地に大々的の設備を完施し、都人の吸集を十分に講じて同地に數万圓を投じたる一大旅館を建設されたのであつた。其後の三朝は順次發展して行つたが、現在のやうに倉吉驛より自動車の便のみでは充分なる發展は出來難いので、輕便鐵道を計畫されたが當時推した發起人惣代が政變ありし結果、黨派の關係上面白くないといふ理由にて發起人惣代を〇〇〇〇氏に代らしむべく某々大阪に〇〇〇氏を訪ひ交渉したが、〇〇氏は政界の事情が異つたので、一旦全員推薦の惣代をやめさせるは德義上出來難い事であると斷然拒絕し其儘になつたといふ。

この外にも黨争に禍ひされ居る事業があらう、兎に角黨争激烈の爲め見るべき事業の起らないのは事實であらう。〇〇氏の如き本縣の事業は斷念して目下別府に百万圓を投じ住宅事業を起して居ると聞く。

こゝに温泉の話が出たので一寸書いて見たいのは、縣下を通じて、岩井、鳥取の吉方末廣、吉岡、濱村、湯谷、東郷、關金、三朝、淺津、皆生の温泉あり、中にも岩井や吉岡温泉名物の湯かむり歌は特種の温泉氣分を漂したものであるが、今は亡びつゝあるのも惜しい。それは兎も角、斯やうに多く

七

の噴泉を見るのは全國に稀である、だが到底縣外人を吸集するの設備に乏しく、偶々前記〇〇氏のやうな活動家を彼れが如き事業で縣より離れて行くことの寂しさも縣民は思はぬであらうか。かゝる意味で温泉發展策のみに限らず、大體の縣の有望なる悉くの事業は永久に起らないとすると、遂に郷土は閑古鳥の巢喰う土地と化するであらう。

序のことだから、縣より有力な活動家の離れて行くことの原因をもう一つお話して見たい。

これも大阪に於て相當なる地位を持つ實業家〇〇〇〇氏に就いてであるが、縣人の知る如く先年鳥取市より選ばれて代議士となつた氏もまた愛郷の心を失はぬ人であつた。議會に於ては先づ千代川袋川の治水問題、高等農林學校、境港改修問題等随分難多なる問題に對しては極度の努力を惜しまれなかつたが就中治水の問題にあつては日夜内務省及政府の大官に陳情し、當時堀田土木局長の讚意を得て運動し、大體政府の諒解も出來たので建議案は議會に提出されて、提案理由の説明には氏自ら其任に當り、又は委員會の委員となり各委員の諒解も得た結果、愈々政府も同意して満場一致可決せられたのは一は全く氏の努力の結晶に外ならないのを認めぬわけには行かぬ、然るに其後、市會縣會議員の選舉に當つて各候補者の政見發表に際し、治水問題は當時吾々の最も力を注いで實際活動した結果成功を見たので、當時の代議士は只表看板に過ぎなかつたと吹聴した爲め、少からず〇〇氏をして不快を感せしめたといふ、またその外にもある、鳥取高等農林學校設置に當つて〇〇氏は十萬圓の寄附

をなし、其後又鳥取市廳舎を建築するに當つても一萬圓の寄附受け、尙建築費不足五千圓の追加寄附を求め乍ら愈々市廳舎の落成式となつても驚くべきことには、建築費總豫算の三分の一以上の寄附者たる〇〇氏に對して、招待狀を發せぬのみか禮狀の一本さへ出さなかつたことである。而し市當局が故意にかゝる態度に出たのではなく失念であつたであらうけれど、あまりに冷淡である。

縣外で成功してゐる活動家たる有力者をして、愛郷心を斯くして離れさして行くといふ事實は、市として縣として不利であり、寂しい氣がする、ところが偶々縣民のうちには、元來縣出身の人物に吐哺握髮の熱意がないなど批難するものもある、けれど以上のやうな事實ありとすれば残念乍それは當らないとも云へる、而し事實また縣外で活動し成功してゐる人も或ひは自己一身上の我利的な打算から郷土に何等盡力しない者もあらうが、それ等に對して勿論頼る必要はない。

話が思はず脱線したが、兎も角縣の事業の起らざる所以は、氣候や縣民の活動心の乏しいこと、黨争の弊によること、縣外では活動成功してゐる人をして縣より離れしむること、また郷土に對して何等の貢献もせない人もあることである。縣内外人協力一致が大切である、次に縣より出身した傑れたる人々を一寸調べて見よう。

まづ昔の人々を見ると傑れたる人は寥々たるものであるが、河田景興、堀熙明の如き慷慨鬱勃なる士があつて、西郷隆盛、木戸孝允などの大人物と交つて國事に盡瘁したのであるが、河田景興の如きは

その爲めに晩年子爵を賜り帝國議會の創始に際し貴族議員に選ばれた。また江戸時代三歌人の一人として日本歌壇にその英才と覇氣ある歌を以て萬丈の氣を吐いて、徳川中世に名高かつた香川景樹ありまた岡西惟中も俳諧をよくし、その師宗門下中最も學殖ある者であつた。其他この道に飯田年平など有名である、當時鳥取藩に關係ありし人で畫家片山揚谷、土方稻嶺、黒田稻阜、沖一峨、根本幽峨などあり、町人で義侠を以て遠く廣島で氣を吐いた大谷文次郎もある、講談での色男白井權八あり、天下の豪傑荒木又右衛門もありだ、蘭學者稻村三伯、刀工大原安綱、同眞實もある、又芝居で名高い先代萩の政岡の生地も鳥取にあるさうな。

政治家として最も傑れた人は松田道之氏、奥田義人男とする、兩氏に對しては喋々の必要なきまで縣民の知るどころ、現下政界に人なきは寂し。

近代著聞する人では日置黙仙師、門脇重綾天臺宗座主たりし不二門智光、郵船の加藤正義、國手伊藤隼三、法博桑田熊藏、新領土に發展しつゝある兒嶋幸吉、法博岸本辰雄、勤王黨では正埜適處、百銀行頭取高田小治郎、川合清丸、本部泰、佐伯友光、武士道鼓吹者信夫恕軒、美術學校長藤田文藏、常陸丸で有名な悲壯の須知中佐、名工宮本包則、漢學者伊藤宜堂、松本元泰、齒科大家山村樸次郎、新聞の元祖小泉忠藏、事業家に山口嘉藏、先覺者に山榊直好、數學大家に樺正薰、文學大斗頭本元貞、沖男爵、前諸陵頭足立男、前帝室博物館長森本後凋、鐵道では藤田虎力、米原竹次郎、法橋善作

市制功勞者田中政春、英文學者武信由太郎、畫家牧野芝石、刀匠日置兼次、陸軍大將には内山小次郎將官以上は十五名博士には藤田敏彦、田中筠彦、加藤正治、佐々木惣市、橋田邦彦入江英哉等々二十餘名文學者には生田長江、杉谷代水、伊藤銀月、藤原喜代藏新進の方では寛正太郎外務省畑では澤田節藏等々なか／＼にぎやかな事である。

そは兎に角縣の商工業の不振なるは前に述べし如くなるが、文化事業は如何といふと、これ又お話しにならない。これを先づ民衆的なものから見ると圖書館であるが、縣下に於る數は漸く市立一、町村立三、私立三、藏する書籍總數約七万冊。内容に至つては一層貧弱であるといはれて居る。今少しく充實せしめ、もつと一般的に圖書館を利用することを宣傳し、そして熱心に氣持よく勉強出來得る場所としたい。何故現在一日平均閱覽人員三十六人の少數しかないかといふと、それはやはり館の内容の充實されてゐないのと、一般の利用することの少ないことに原因するであらう。これ等に對して熱心と努力を當事者が有してゐるならば、書籍購入費維持費などは、富豪や有志の當然なる寄附があるものと思はれる。

次は學校であるが縣内に中等程度のもので縣立、町立、私立を合せて十七校。技藝、盲啞、造士學舎其他など入れて三十校を算す。

近來中等學校に入學志願の少年少女年々多くなりしは學問向上の結果として慶賀の至りであるが、

その收容人數より多數ある爲め、入學難が叫ばれ可憐なる兒童の精神を打撃するので一般の父兄及教育方面の人をして憂慮せしめてゐる。私立でもい、充實完備した學校の設置を希望されてゐるが、是非とも時代の要求する新しい——と云つても轉手古舞式ダンスや、下級な童話劇など教へるのでない——ところのものが望ましい。

宗教分布は曹洞宗百九十七の多數を占め眞宗四十二、淨土四十、眞言三十七、日蓮三十七、臨濟八神社は神話時代に活躍したる山陰官國幣中社比較的多く、島根の七、八には及ばざるも、縣下に四あり、又諸國一ノ宮及國分寺は歴史總覽によると、因幡宇倍神社、伯耆倭文神社、國分寺趾因幡國分村伯耆には東伯郡社村字國分にある。

精神的文化事業といへば直ちに縣人の思想を一瞥したくなる。大體に暗い因循で消極的で、そして小成的で偏狹的であるのは前に述べた通りだが、而し縣の西部即ち西伯郡地方には商業の可成發達した米子のある故か人心幾分活氣を帯びてゐる。

偶々同地方の農村に頻々起りつゝある小作爭議は地主對小作者の協調圓滿を希望するところがこゝに意外なことを見出さねばならぬのは全國犯罪及犯罪嫌疑者數と本縣のそれを比較して見て、本縣の割に少數であるとは云へないことである。参考までに統計を掲げて見よう。

全國犯罪及犯罪嫌疑者數八〇三、二一五人

内殺人罪二、〇三一人

鳥取縣犯罪及犯罪嫌疑者數一二、六五五人

内殺人罪三三人

これは嫌疑者のことであり、これ等悉く本縣人でもないが、淳朴卒直な縣人にこの犯罪件數の生じたるは他にその原因なくてはならないが、こんな陰氣で殺風景な話はやめたい。

最後に少し名所でも御披露に及んで見よう。鳥取市の近い處から初めると岩美郡宇倍野に在る國幣中社宇倍神社は武内宿禰を祀り、堂々日本帝國の發行する五圓紙幣に、神社と宿禰の面影を印刷してあるので有名でなくてはならぬ、摩尼寺は國中の信仰を集めて居る。次に氣高郡末恒には小學讀本や唱歌で子供のお馴染の「因幡の白兔」を祀れる白兔神社あり、勤王の士名和長年を祀る別格官幣社名和神社は西伯郡名和村に在る。又こゝには船上山ありて、元弘帝を奉じ義旗を擧げて史績上有名な山である。

寺院には八頭郡富澤の豐乘寺は本尊の普賢菩薩揚樹觀音の畫像を國寶とされ、其他鳥取の常忍寺、大山村の大山寺、三朝の三佛寺其他觀音堂、阿彌陀堂などの寺院を特別保護建造物とし、本尊及彫刻繪畫、刀劍など國寶とされてゐるので、古代美術の研究者や趣味を持つ人の參考とならう。

其他山陰の松島と賞せらるゝ浦富網代海岸の鳥嶼の奇觀は天下の絶景であり、「立ちわかれ稻葉の山

の峯におる……」の百人一首での稲葉の美くしい松山。鳥取の荒木又右衛門の墓、鹿野町の山中鹿之助の墓、湖山伏野東郷池の美景、倉吉の打吹公園、潺湲として流る川に沿ひての三朝温泉は東洋第一のラヂウム温泉で山中にあつて景色また佳し、米子の錦海の風光、弓ヶ濱は大天橋立と稱して白砂青松に風景麗しく、一名夜見ヶ濱の名ある通り夜見は美しい。大山は國有公園たらしむるの價値ありと激賞せられてゐるだけあつて、あの雄大秀姿の山靈に觸れた者は讚美せざるなく、近來近縣よりも登山する者激増し子供を連れて夏の避暑する外人すらも來り、秋の紅葉冬のスキー、大山寺あたりの景は雄大一幅の繪畫たり。頂上に至り陽の出を拜することのいかに壯觀であるか、遠く眼をやれば廣茫たる北海に隱岐の島も認められ、島根半島の翠巒、境竈道湖一帶の勝地を一眸に收めらる。殊に夏季には大山山麓一帶に高原別莊地を卜し、京阪より一夜の好避暑地とするも繁榮上のみならず、一體に適してゐる。斯ように即ち我が縣は名勝多々あり、加之近縣には東で鬼で有名な大江山、但馬の玄武洞、應舉寺、出石の鶴の巢籠、余部鐵橋、西に安來節の本場十神山、水郷の松江、縁結びの神様大社、石見の斷魚溪、長門峽などありて到る所遊覽保養に或ひは美術に史績に參考資料たるもの豊富とし、大山を中心にして山陰道一帶を雄大な一大天然公園として世界に紹介するには山陰各地の有力者の奮發によつては、敢て難事であるまい。

さてまづこの邊で縣總覽の一卷を終つて、いでやこれより市町の解剖にとり掛らん。



二、鳥取の巻

鳥取市は三十二万五千石の大藩であつた當時、人口八万を算し文武兩道人心霸氣剛健の風があつたさうだ、然るに廢藩後は二万餘りに衰微し現在はそれでも漸く四万までに恢復されたといふものゝ市中落莫人心萎靡だが、何時までもこうした城下町の寂莫の状態は永くは續くまい、大體商工業營業區域は但馬の一部因幡一圓伯者部なか／＼廣い、市の目抜の場所智頭橋畔には山陰第一の高層協銀ビルディングは巍然として聳え、立派な電車型の所謂文化的自動車の數臺瓦斯を吐いて市中を走り、年頃の女は耳隠しに厚化粧、派手な着物をつけて流行を競ひ、濫皮むけた女給が愛嬌まくカフェーは日毎に殖へて行き、と云つたわけだものね、いまに六七年もせぬ間に見て御覽んなさい、さしづめ學生の氣取つたのはルバシカなんか着込んで市中を濶歩するであらう、粉黛と媚態に浮身をやつす斷髮の新らしい女が、金魚の立ち遊びのやうに洋装でこれも町をぶらつくであらうし、赤い瓦の玩具のやうな住宅が郊外を文化村と化するであらうし、郊外電車は宮の下邊から末廣へ驛と連絡し鐵道官舎前より今町を抜き外市から寶殿橋湯所から公園へと……市役所前へと段々と走驅することだらう、街の目抜き商店の店構へは皆人造石の洋風となつて了ふでありませう、今に智頭街道より若櫻街道が目貫に

ならう、何處も彼處も道路もアスハル塗こうした都會的の華やかな文化が滔々と侵入して來て、陰鬱な町を表面でもいゝ明るくしてくれろことは、まあ結構なことだと申して置きたい。鳥取將來の工業發展地は驛を中心として吉方から大黒座方面に伸びるであらう、鳥取市の報時器が午砲からモーターサイレンに變つた、煙硝をつめて、火をつけて、ドンとうつよりは、電氣装置のモーター、サイレンの方が、はるかに現代的であるかも知れない、たゞ、われわれとしてはドンであらうとモーター、サイレンであらうと差支ない、要は鳥取市民の時間觀念を、今少し現代的、文化的にしてもらひたいと思ふ時を知るための時計は殆ど遺憾なく行き亘つてゐる、事務室に書齋に、臺所に、ポケットに、腕に時計を持たぬは少い、しかしその内果して何人か眞に時の貴重と善用を知る者であらう、心細い限りである、ドンがモーター、サイレンに變つたのを機會に鳥取市民は「時間勵行」を決意すべきではあるまいか。

他市に一寸見ぬものがあるそれは、樗谿公園、一方久松山の連脈を覆ふ鳥取市には自然の公園地が少なくない。中にも上町樗谿は古杉老松其他の雜木鬱蒼として、而も奥深く一步境内に入れば恰も深谷に入れるの感がある、俗塵と幽邃を一步して、味ふの地は蓋し市街地の孰れにも求め得られざる所で樗谿は山陰觀光として來る都人の驚嘆し且羨望する地である原工學博士の設計に依り、森林公園とし錦上更に花を添ふ計畫中である設計者の原博士も森林公園としては日本一だと賞めちぎつてゐる

それから青物市場、鳥取市の青物市場は一年三百六十五日只舊正月の元日一日だけ休むのみで、年中雨の日も雪の日も、問屋の賣聲を聞かぬ日なく、市内數十百の八百屋の集まらぬ日はない。此處に持出せばどんな品でも賣れ、亦大抵の品が調ふので朝市の雜踏と來たら肩々相摩し女や子供は寄付けぬ程である。而も此市場は池田家鳥取城に移封されて間もなく開設された歴史を有し、喧噪の裡にも自然秩序立ち居り不思議に賣言葉も買言葉も喧嘩にならぬ、雜然又紛然たるも規模の大なる山陰道には無論其他にも餘り類がないので、外來人の目を驚かし、鳥取市に於る唯一の名物となつて居る。

そこでそれでも追々と開けて行く鳥取市の傾向をまづ女學生の服装から見よう。

二三年前から幼稚園や小學校の子供が洋服を着出したことは至極いゝ、殊におかつばの女の子などにはそれはとても可愛らしくよくうつる。而し中には相當贅澤なものを着せてゐるのがあるが、それも出来るだけ、小さい時から二重生活の弊を教えるの虚榮心がどうのつてことは云はないことだ。躰の發育上にもいゝのだから理窟なしに、まづとても可愛いゝぢやないか、それでこうした子供は外國にこのまゝ連れて行つても決して羞しくないさうだが、あの女學校の生徒の制服は何うだらう。と云つて何も洋服の生地を絹にしろの、上等な純毛にしろのつて云ふのではないが、あの暗い色と無細工な仕立の服を彼女等に着せるのは可哀想だ、いくら經濟で質素で何とかつて云つても、もう少しは美的な明るい感じのする仕立や色のそれを着せたらどうでせう。あのスカート?のあたりはとてもヘン

なもんだ。都會の場末のカフェーの女給だつてあんな拙いものなんか着ては居ない。唐傘で下駄での滑稽な洋服を着て通學してゐる女學生を見ると思はず噴き出したくなる。いやほんとに悲惨だ、學校の女先生にはこの頃ハイカラな洋装なのもある。少しは生徒の服装も考へてやつて下さい。

おせつかいの序だ、ハイカラな鳥取の娘さんに注告したいことは、鳥取のやうな強い風の終日吹く處では髪結び方をお考へなさい。耳隠なんかで澄してお歩きの貴女達の頭の頂上は、風に亂れて色の變つた入毛がはみ出してゐるのも御存じないなんかあんまりいゝ圖ではございませんね。次は品を變へて株式會社文化自動車だが、これはいゝ、成る程電車型の大型で除行で走るんだから激しい揺れもなく乗つてゐるとつい、いゝ氣持ちになつて寝過すこともゐる位ださうだ。東京の圓太郎なんかよりぞれだけいゝか、これは鼻を高くする價值がたしかにある。鳥取の町を都會化する第一歩はこの七臺の乗合自動車が動いて呉れたことだ。なか／＼収入もあつてこの會社？は儲けてゐるさうだ、が筆者はより以上儲けさせてあげたい極意をお授けしたいことは、出來得るだけ美人を車掌に採用して、赤い帽子で洋服でも着せ「切符の切つてない方はごさいませんか。エー次は本町郵便局前でごさいます」てな黄ろい叫び聲を出させることだ。

次のこれはおせつかいでなくて、毎年の縣會で堂々として問題になつてゐるのに驛前遊廓移轉がある。これも一寸喋つておく必要がある。「日夜絃歌しきりに、或ひは喋々喃々たる淫らなる男女の私語る。これは汽車通學の學生に及ぼす影響や甚大なるものあり、よつて速かに……」と一縣議をして毎年縣會の壇上で叫ばせるところの黒塚内の遊廓は成程市の玄關口の位置にあり、假令所謂喋々喃々たる痴話は洩れなくとも文化の高さを誇る鳥取市にとつて場所が悪い、湯所の寂れた方面なんかに移轉することは、その土地の繁榮上にもよく一舉兩得の策であれば早晚移轉の必要あらう。

流石縣で一等大きな町で文化の程度もまづ高いであらう。音樂會だの美術展覽會だの、或ひは何々講演會など云つて度々有益なる會が開かれる、勿論高いが故に開かれるので以てこれによつて證明されるわけであるが、その講演會が假令キリスト教の宣傳講演であらうと、國際聯盟のそれ、亦佛教のそれであらうとも兎角有難いことに違ひない。そこに集るものは、いや集れることを唯一の誇とされる知識階級の人々であるが、いま音樂會や美術展覽會は至極いゝとしてキリスト教や佛教のそれを例にとることは實に恐縮で相濟まぬことであるが、こゝにキリスト教の講演會があるとき考へて見たいことがある。有難い講演される人は勿論高德の方にあらせられ、聴集は悉くその知識階級であり、物質的には餘裕あり精神的には恵まれた人々である。その證據には會場は着飾つた紳士や淑女で一杯である。ゴールドウオッチをつけた手を上げ、金縁眼鏡の玉を光らして上等な着物をつけた牧師なり先生なりが、出來るだけセンチメンタルな聲を出して神々の愛をとき、白粉をはがしてお泣き遊ばす感傷的な淑女の涕泣きを聞くときの光景はまことに羨しい雰圍氣を作るのであるが、こゝに筆者の申

二〇

上げたいことは、耐えられない夏の暑さに、また身を切る嚴寒の冬に、仕事は勿論食物も着物もない哀れなる人達が今町のある裏店に住んでゐることを御承知願たいことである。臺所も便所も寝る所も結局は一間四方の二疊敷だけの薄暗い陰氣な湿っぽい家の中で、勿論電燈もどる餘裕なく、窓には九竹の格子に古新聞紙を貼り、蠟燭の光りに照された室内は破けた薄い夜具も入れるところもなく、缺けた茶碗、鍋、七輪や古箱の食臺と一緒に雜然と隅に並べられ、僅か一日五錢や十錢の金で暮してゐる陰慘な彼等の生活を一目すれば、お互に住む人々のそれであるかと思ふと悲しい。彼等の大部分は第四階級の下等の職業とされるそれによつて生活してゐるのである。人生のどん底に陥ちて極度の窮乏と不幸から絶望と自棄を悲しみの呻き聲と共に、致方なき忍従の生活に甘せねばならぬ彼等である。或ひは自棄から憂鬱にそれから懶惰にさなるそれもある。又いくら正直に稼いでも「どうにもがいたつて駄目だ」と諦觀のうちに自己の生を終る痛しき者もある。そうした社會の敗慘者の集り、あゝ敗慘者！汝は到底救はれざるであらうか。精神物質とも恵まれたる彼等ブルの階級を相手とする講演者なり主催者なりは同じく神の愛を貧しき人々にも説くことは出来ないであらうか。富める者は天國に登れるとか登れぬとかと説く人のあの贅澤な服装では眞の愛の教へを説くのを何とか云ふのではないが、物質を恵まなくとも慰めの愛の教を説くことは出来ないであらうか。

鳥取市人に哀れな貧民窟のお話しをするのもあながち無益でないと思つたが思はず脱線した。貧民

窟の存在は致方ないとしても再三有益なる講演會が開かれてもそうした四階級方面に及ぼすそれが無いとすれば文化の問題如何を考へざるを得ない。

それと同じく商工業と文化とは常に平衡に發達せぬものと見えて、鳥取市の前者は全く振はない。それには種々原因もあらうが、まづ商工業状態を一瞥する前にこんなことをいふ人もある。抑々鳥取市の發達したのは所謂經濟的自然の要求でなくて、池田候因伯二州を兼ねしより三十二万五千石の大城下として繁榮を見るに至つたので、即ち生産の地でなくて消費の地としたのであつた、そこで鳥取商工業者の目的とするところは即ち幾千の武士を相手に高利益を貪るを主とし、傍ら地方の農民を顧客として悠々朝夕久松山の翠綠、紅葉を眺めて安穩無事呑氣な生活を營んだもので、そんな脚躰退嬰的な風があり、とても活氣を帯びた商業や大規模の工業や新企業の起らぬのはやはり封建時代のそうした鎖國的氣分の餘弊である、といふのである。成る程市には工場らしいそれも會社もない。漸く全市に僅か製糸工場の四五本の煙突が淋しく煙を吐いてゐるだけ。

商店の方はといふと、流石鹿野智頭若櫻の三街道筋には相當な大きな店が並んでゐるが、これとて勉めて客を引こうなどといふ熱心も見受けられない。呉服店にしる雜貨店にしる其他何店にしるあのウインドの裝飾を見てもわかる通り廣告、宣傳などは實に下手糞なものだ。塵にまぶれた商品を雜然と積み並べるのみのウインドなら、何も店先に麗々しくくつ附けなくてもよさそりなもんだ。がこれ

は商人のそうした頭のないので致方あるまいが、せめて客に對しては氣持ちよく待遇してはどうであらう。來る者に賣るんでこちらから買つて下さいとは申さないといふのであらうけれど、眞に不親切なもので客の種々な注文に對し忿々然として小言を吐き、商品を示すことは勿論慵き有様、買はないと來たら「毎度有難うございまアす」と皮肉な笑で送る。それで商品は決して安いのではなく「他の店もどつてゐるけい」といふのが暴利の原因の一つ。それでもいまは珍らしく正札主義を勵行してゐるものゝ、變んなことにはその正札の裏には「メリ」とか「ロク」とかろくでもない犬の名のやうな暗號をつけてゐることだ。これなんかも矢張り表面は正直らしく見せてその實不正直を證據立てゝゐる。ほんとに正直を看板の商店を二三軒知つてゐるがそんなこと書くや営業妨害だとか名譽毀損とかでの虞れがあるから止めるけれど、兎に角懸値は鳥取商人の通弊である。だがまた客の方も決して値切るこれも悪いが大體にして鳥取の商人は大きな活動もせず小成的に納つて、巧く金の四五万圓でも儲けるものなら、處も場所もお構ひなしで格子付となつて隠居心を出し、懷手で握拳丸を極めて了ふ。それでも老後のせめてものゝ名譽とか仰有つて市會議員や商業會議所議員となりたがつたりして騒ぎ出しさてまんまと議員になりすますと「本員は市の商工業不振を最も痛嘆する者でありましてそれで……」と何とか屁理窟をお並べになるばかりでは市の商工業の發達はとても駄目であらう。だが市政や市議のことは筆者詮議の限りでないでぐつとくだけて因幡の食道樂といはれるその方でも探索して見よう

鳥取市の一流といはれる料亭には相當な座敷を持つたのが可成多いが、その主人達は割烹の知識は無之と見えてお料理の手際と來てはカラ駄目だ。これでも食道樂なんて通人ぶる因幡の鳥取人がよく辛棒してゐるものかと感心させる。でも時には「ペラ棒な、ぢやない筈にもかゝらぬ料理を出してお客さまの味覺神經を鈍感なものど心得へてゐるから癪だ」なんて憤慨するそれ者もあるが、全體の料亭の手際は皆同じだから仕方がないが、たゞ一つ感心なことには馬や牛に食はせるほどの量の多い料理を出して評判をどうとすることだ、これもあんまり時世を知るとる利巧な策とは云へまい、口だけでは、でも「うちの料理人はこの間大阪の一流ごころを引つ張つて來ました」なんて何時行つてもそれを繰返し、出鱈目の嘘を並べるから全く料理屋の主人公は食へんのだ。そこでこの大阪一流の料理人の手になつた料理とはどうかといふに、大體日本料理はアツサリとした調味を喜ぶところにあるのにヘンな洋食のフライのかたまりなど膳に付けたりして、それでも新らしい料理方だなんて心得へるから笑せる。それも多人數な宴會の席に、目の御馳走だけで酒をガフ／＼と飲んで大暴れに騒ぐときなどは大目に見てやつてもいゝが、所謂シンネ、コの四疊半で靜かに料理の美味さを味ひ、上等のお酒でも飲みに行つた時などは少したまらないさうだ。それに藝道そつちのけで色慾道ばかり完全に發達した不見轉藝妓が、勿論氣の利いた端唄の三味一筋も碌すつばさばけず「因州因幡の鳥取で」のダンス得手込と來たときにはとても助からないといふことだ。

いや話が少し猥らになつたが、そこで町のどこへ行つても料亭初め小さな飲食店の多いことは而し儘かに食道樂の名を汚さないが要するに質より量を食べることで食道樂と云つてゐるらしいがこれを食倒れと訂正してもいい、次は歡樂の情調青春の血を躍らせるといふカフェエを覗いて見よう。

カフェエ情調は何といつても楽しい夏のものだ、涼しい風が黄昏に吹き初めると軽い白衣でそゞろ歩きが、むつと甘い酒の香が漂ひ、眩い白いカーテンの蔭のアスバラカスの鉢を圍んでユモレスクの畜音機の曲と、豊かな張ち切れさうな肉體を包んだ赤い帯の美くしいウエートレスの媚びを含んだ眸に浮れながら、眞赤に酔つた若人達の愉快さを見てはつい這入りたくなる……と云つたものだ。夏の鳥取のカフェエは歸省學生の氣取つた奴が、ハモニカやマンドリンを持ち込んだり、長髪を額にうれいげにたれた詩人らしいのが一杯のソーダ水で考へ込み、酔拂つて舌捲きの江戸ツ子で勝手な熱をあげてゐるのもあつていやが上にカフェエ氣分を濃く色彩のお蔭で、こちらの中學生なんか烏打帽子に變装しての浮れ方にお店繁昌といふわけでもなからうが、うどん屋や飲食店がカフェエに早變り殖へる殖へる恐ろしい勢で殖へて行くカフェエは鳥取に三四十軒もあらうが、實は今日開いて明日は晝逃げつてのも多く、それだけ確りしたカフェエは以前より開いておるの外はカフェエらしいカフェエは多くない。そんなのは年若い娘に眞白に白粉を塗り立たせ、エプロンを掛けさせて、肉をたゝいて焼きさへすればそれでカフェエなんて看板を出す、講談雜誌の口繪や二三十錢位の油繪を汚い壁に貼つ

たり、下手な造花を安物花瓶に挿いたり、蓄音機の一臺もあればよく痛んだ安來節に關の五本松、眞白に塗つたは顔だけで、安油の臭い髪、指の爪の黒い手で料理を運ぶ女給なんかでは全く不愉快にされる。料理はもとより一杯のコーヒすらも濃い番茶に黒砂糖を入れたやうなものを提供するなんか我慢はまかり成らん。それでも中には「佛蘭西御料理」と看板を上げて大きく出るものもあるが、献立表でもあるなら英語讀みでなんかは人を喰つたことだ。兎に角氣分なんか滅茶々にするカフェエの殖へるより序だが鳥取には相當大きな菓子店もあるがこれに一つ氣持ちいい、喫茶店でも設けて、小綺麗な小僧さんを給仕に仕立させたらと思ふがどうであらう。軽い疲れを休みに來る家族連や、中には女給が居ては恥しいてなラダサン達も來るであらうけれど、靜かな、酒ぬきの、お美味しいコーヒやソダー水位の飲物の喫茶店位一つ位あつてもいいと思ふ。敢へてお菓子店の主人公に御相談して見たい。處のものが處をくさすのは愛郷心がないのでないあるから一の刺戟して改善を希ふ老婆心であるカフェエの話はこれ切りとして、新開地末廣道路の温泉氣分を味つて見よう。

驛前から吉方町に抜ける道路布設工事中に突然處々に温泉湧出を見た以來、温泉場を建設して一儲けせんものとの掘鑿者が現在十五名。この吉方、東品治の田圃は温泉地區と決定されて中には早くも假浴場建築して入浴を初め、逸早く飲食店、カフェエも並び前途有望の温泉町を實現せんとしてゐるのが即ち末廣道路である。何さま鳥取市内のいゝ土地であり掘鑿成績も良好であるので、早くも東京

大阪の土地會社は、湧泉地一ヶ所十五万圓の割りで買取りコンクリートの大洋館を建てたりしてこゝを一大遊園地とする計畫さへあると傳へられてゐるが、そんなことを他縣の思惑師にされて鳥取人は指を喰へて見るなんて意氣地ない話はないと現掘鑿者は幸にこれに應せず今の所、景氣は頗るいい。先年の但馬の震災當時は、あまり處々に湧泉が激しいので、今度は鳥取に地震の來る番だと思つたらない流言蜚語の行はれた位であるが、とまれ吉方から驛前の一帯は温泉地と化し、鳥取の名物は今亡びかけてゐる湯かむり歌だといふのになつてまづ、商工業の寂れたのを埋め合せて温泉で賑ふことだらう、いまの末廣道路には新築の小料理店も、カフェーも軒を並べた。玉突屋も土産屋も出來るであらうし、宿屋もハイカラな末廣ホテルでも出來て追々繁昌するであらう。何一つこれといふのも出來かざない鳥取商業會議所も温泉町としての計畫でもやつてゐるのが上分別と申すもの、只手では歸しませんよ、土産品は白珊瑚海松細工は高尚で優美です、香合石、鳳尾竹の洋杖、松葉蟹、湖山煮、百合羊羹、二尋饅頭、新兵衛柿もあります。買入の便利は品の豊富な驛前に土産館もあり縣の商品陳列所即賣館も便利で正札であります。以上で鳥取の一卷は一先づ暗轉して米子を上映いたしませう。

▽古 童 謠

イチクタク、タエンコ、中見りやしんがわく、ニッコー女郎の、罪のさまはブイ。
トントンたてぐ山、もどすみようすみ、遊ばれまいかいナ、どうふくびんば、柳にとんぼ、つないだ

▽古 民 謠 (岩美郡)

油絞師は晝まで乞食、七つ下れば旦那さん。
大工さんより木挽がにくい、深い中でも引わける。
糸屋の旦那さんは算盤枕、糸が賣れたら金枕。

鈴木先生著

再版 壯烈二十士

正價三十三錢

送料四錢

因伯若武士の精華、如何に維新當時、燃ゆるが如き忠君愛國結團である。血湧き肉躍るの觀かある、大膽不敵、縦横無盡やはり人物揃であつた。郷人口をつむいで言はない、全く遠慮がある、其れで本書の價值ある所以。歴史上好箇の讀物で、眞に國民渴仰の快著である。

發行 元

鳥取市大工町筋

横山書店

縣下各書店にあり



三、米子の巻

昔粟島の長者の一子が加茂の傍に住んでゐたが家富めるも子がなきどころ、どうしたわけか始めて八十八にして一子を挙げたので世人これを奇瑞として八十八の子といふ文字に因みて地名を米子としたといふ傳説がある通り、それに相應しい米子市は眞に意氣激濁活氣横溢の町風がある。人口三萬縣下六郡を合せた富の三分の一は西伯郡に在るといふのも即ち商業の發達した米子が控えてゐる外ならぬと思ふ、本邦地理學泰斗志賀重昂氏東部から來遊の際日野川の沖積平野の展開より成る山陰第二の平原地に来て「均しく日本海岸山陰でも伯耆出雲境上に来ると地勢の利便な爲めに人情警敏にして進守的に商業發達長足の進歩をして居る社交上諸般の事物山陰らしからず要するに沙漠中のヲアシスの觀がある」と。前は米子は強敵松江に刺戟せられて居た觀があつたが今では主客顛倒松江が米子に刺戟せられて居るらしい。山陰の大阪を以て自負してゐる米子人は商業にかけては頗る熱心なもので坂口家一門の發奮が範を示して居る一寸した商店でも廣く販賣を各地に求め、松江鳥取などに支店を

設けての外的發展の意氣や眞に壯とする。そこでその努力の概しての理由として元來官衙軍隊學校等をのみ相手としての呑氣なる商賣をしてゐる鳥取松江などは、例の舊藩時代の居坐的商賣の情勢に外ならないが、米子は新進の雜居地で昔大藩の背景をもつた便利な立場に居なかつたので、鳥取家老一万五千石の荒尾の采配地であつたつまり政治的中心より離れてゐたので唯一の商業を以て自動的に進んで求めなければならぬに至つたのである、これは眞に米子にとつては却つて幸なことで、其後漸次今日のやうな發達を見たのも一つの原因とされるであらう。その上地勢の上から云つても山陰中最も好位置に在り東を鳥取に、西に松江を持ちまた日本沿岸で有數なる良港境を控へ、山陽街道の連絡は伯備線で津山も近い。要するに海陸の兩方面の往來頻繁なる便があつたことである。

今山陰本線は完全に全通したが近く山陽連絡伯備線が貫通するに至れば東西南北交通開け活舞臺の廣くなつた米子は今後如何に發展するかは蓋し刮目に値し、山陰道中將來一躍四邊を驚かす最も恐るべき發達するの可能性は充分備へてゐる。

さてこの米子人の人情如何といふに商業地たる大阪人と殆んど同じく雜居地、殖民地的な、或ひは寄合世帯式の常としてお互に輕薄冷淡の傾向があつて兎に角とても無愛憎などの批難があるやうだ、それだけに獨立心も強く自己の商賣にかけては頗る熱心である。これを港に近い町の習慣とも云へるけれども試みに米子驛前を歩くと忽ち「休んでいらつしやい」「お泊り下さい」「お荷物をお預りします」

「どうぞおはいりなさい」のあらゆる親切な言葉を繰返し、客と併行して歩きながら勇敢なる金切り聲を無性矢鱈に叫ぶ女中にお神に番頭にさしては花耻しき娘まで出て通行客を包圍する旅館を見てもわかる。

まづ驛を下りてからの印象がこれであるので町のどの商店を見ても番頭や小僧に至るまで客に對しては可成親切であり、店の構造もよく少々大阪式に誇張した看板や廣告も見受けるけれど、大體に明るくて感じがいい、兎に角米子の商店は商業地としての特色を備へてあり、米子目貫は道笑町の中央四ツ角朝から晩まで人足が絶ない昔茶町の一粹士が此四ツ角に佇んで思案に暮れ果て一歌を出したといふは有名な話だ。

「行か灘町歸へるか茶町こ、が思案の道笑町」商人も機敏に抜目なく商賣は上手である。米子市には随分株式會社がある内容は別として此の事業が有利のものみに非ず經營難のものも少くない其難事業は概ね社會的事業で決算期に新聞廣告を遠慮する傾向があるが其配當薄の各種會社に甘んじて株主となり重役となり居る米子人士の豪勢なる事は嘆賞の至り敬意を表せられて居る次第に世目諒解と發展の機あるに相違なく皆生温泉、同土地會社、米子電車、伯陽電車博愛病院其他公共事業程濃厚である難物を守り立て行く米子は偉い、たゞ一つ感心出來ぬことは商賣上のことではないが、商賣に次ぐ熱心で妾を置いて可愛がるといふことだ、金の四五万圓も儲けると格子付けで握拳で骨董いちりか

市會議員にでも出て騒がうとするだけまだ鳥取商人の方が道徳的には關せずと云へど、米子商人の妾宅を置くのが多いなんてことは何といふ悪い趣味で不了簡なことだらう。今更こ、に夫婦間の貞操や子供の教育上に悪影響を及ぼすことやまた大きく云へば社會風教上に云々するまでもなく、それは明かに以て外道となさねば相成らぬ。とまあ心配やら小言やらを並べて見たところで「妾宅を構へるよくな人は甲斐性ものだ」とか「構へないやうな者は一人前でない」とか云つて暗にうちの亭主を自慢する主婦達のあるのも困つたものだが、そんならそのお手前も亭主に負けずに役者買ひでもするかつて云へば結構なことにはそれはせぬといふ。するとそんなことをいふのはあながち負け惜しみではなく物質的に考へてのある誇りを示すものだと思ふがひが目か。とまれそれは主婦連のことであるがどうも亭主の不品行なことは困りものだ。そこで妾宅の方を調べて見ると旦那の仕送りだけではやつて行けないので半商賣をやつてる妾もあるが、中には船板扉で見越の松といふ粹な屋敷に圍まれて月々二三百圓の仕送りを受けて何の苦もなく狎を飼つたり琴を鳴らしたりして、不景氣の風つてのは西から吹くか、それとも東から吹くものか、などお考へのもあると聞いては、年が年中汗水たらして泥水稼業にフラ／＼してゐるそこらの女達は定めし羨しいことで御座らうて。妾の種類はごんのが多いかといふと何と云つても藝者や娼妓上りの玄人が一番。あとは酌婦に仲居や、後家さんから生娘まであつてその總數三百以上とはよく置いたり置かれたり、呆然として口が開く。この頃政府は煙草の値上げな

どして少からず愛煙家をいぢめてゐるがそんなことより全國いづれの府縣も一樣にウンとこたへる小氣味のいゝ、畜妾税をかけてやることを要求したいと痛感される。何れにしても婦人嬌風會や貞操十字軍に聞かせてやりたい話だ。

いやこんな粹な話が無粹になる様ではとても米子は談じられない。だが斯ように畜妾などする米子の商人は(畜妾するは全部商人ばかりでもないが)教養、趣味に於てどんなもの米子市の藝妓は大阪邊が多い喃喃たる驕語艶々たる姿態上方贅六の流を爲す此の美人を對手にする粹人多士齊々折花攀柳柳暗花明の間に遊ぶものが多い娼妓中其多數を占むるは出雲系で隠岐が之に亞ぐ商人によつて埋められた米子はとりも直さず米子人の全體の思想を表現してゐるわけだから注意せねばならぬ。

殊に、一面には流石時代の影響を受けた青年の中には一つの思想團體を組織して社會的運動などしてゐるのもある様だが、思想團體を作つて文化の低い文化方面にカゴプを入れるが必要である。

今や米子には市内電車を動かして居り市會は道路計畫を斷行し灘町立町角盤後藤驛前通りの道路を買收して六間道路として電車軌道を敷設した、二十年前は帶の様な米子裏はすぐ青田や桑畑であつたが角盤町通は如何行く度ごとに加速度に人口激増して居る。上水道も布かれて、過日市内の井戸を博愛病院長の博士が水質検査をした所、この飲用水は腐蝕した汚水や糞尿を飲用してゐると公表したさうだがこんな嘔吐を催すやうな水も飲む必要も無くなつたので、これで米子は完全に物質文明的に都

會の資格を備へたといふものだ、工業都市として新興氣分が漲つては居るが總ての組織、整頓、内容充實の點では、松江市や、鳥取市等と比較すれば、まだ一段の見劣りがある様であるのは致し方がない。濱ノ目を控て居るので繭の大集散地物産は生糸、酒、醬油、農工具、銅、名物は蒲鉾、赤貝、羊羹最後に名所の一二を探つて見よう。

怒濤狂瀾の日本海に突出した蜿蜒五里の江上細波激澗、雲山伯水相抱いて眞に山紫水明の仙郷こそ我が米子市也、と自慢するだけあつて勝れたる名所の數々あるかといふと残念ながら米子には少ないがたゞ、美くしい落陽が靜かな海上を色彩る夕暮の錦海を持つただけでも米子の町は幸とせねばならぬ、其他は米子城趾、勝田神社、感應寺位。而し周圍には勝れたる名所も多く、山陰第二の大河日野川はその流域二十里滔々として北海に走り、河岸の何處に立ちて四邊を觀望しても雄大な絶景である夜見ヶ濱は米子より境に至る五里の砂濱弓灣狀の一帶に白砂青松を以て風景絶佳の半島を云ふのであつて大天橋立の稱がある。又全國に唯二つしかない宇田川村の石馬は二千年前代の遺物として考古稀世の珍品といふ。米子から郊外電車も最近開通して日毎繁昌してゐるのに皆生温泉がある。北には藍海に臨み、背後に大山の秀領を控へ海濱一帶は若松の茂みに圍まれて風光佳美のバラダイス「皆生」の名はいゝ。

鳥取縣の如く温泉の多くあるのは全國にも稀れで、またその温泉場が悉く景色の勝れたところにあ

るので以前縣のお役人が温泉協會なるものを設けさせて縣下の各温泉を京阪を初め廣く全國に紹介し來客吸集の發展策を講じたのはいゝとするが、元來この温泉にも俗惡淫蕩の氣分が漲り少からず靜かに保養する者にとつて不滿を抱かせてゐるのであるがそれに對しては何等の改良も施してゐないが殊に皆生はそれが甚しいではなからうか。場所柄に過ぎた二組合の藝妓檢番が猛烈な競争し、藝者がールは客の爭奪に懸命となり随つて娼婦型が多く、朝に吳客を迎へ夕に越客を送る式であり、また旅館も藝妓を強要するし、聞くに堪えない絃歌で騒しくて安眠も出來ず隣座敷の有様にほと／＼保養客の眉を擡めさせるさうだ、いかに土地繁榮上淫蕩な空氣を流しても仕方がないとするど保養客を全く度外視したことになるが、さうでないとするど「皆生」温泉なんて名前が第一不可ない。一體安來節の本場や美保關が近いのだから皆生の風紀が悪くなる、自然とさもあることながら何時までも現状維持するならば、いかに餘興館や水泳プールを設備しようとして到底理想的な温泉地として推奨することは出來まい。勿論保養客を主としてのそれはまた淋れることもあるけれど、自然の美しくさに憧れて靜かに温泉に浸つて保養せんとする客のためにさうした居心持のいゝ旅館の有つてもよからうと思ふ殊に縣下温泉中勝景地としての天惠を受けてゐるが故に皆生のために惜しまれ且つ希望せざるを得ない。

俚 諺

大山お山の二股つばき枝は姫路に

葉は日野川に花は米子の城で咲く。

地方傳説 第一篇	因伯昔話 三十五錢送料貳錢	傳説の大集成ならんぞす、清新健全なる家庭讀物として青少年、少女、翁媪諸君が團欒の優しき師友、こゝに選り出されたる傑作は、教訓もお笑草ともなり、興味深く無盡藏何人も讀んで賞美を保證します。
地方傳説 第二篇	因伯童話 三十五錢送料貳錢	
地方傳説 第三篇	因伯物語 三十五錢送料貳錢	
地方傳説 第四篇	因伯夜ばなし 印刷中	
發行元 鳥取市大工町筋 横山書店		縣下各書店にあります



四、境の巻

兎角港町の人々は氣が荒い、何事に依らずすぐお互すら喧嘩腰になるのは境人である、粹であるべき藝妓置屋と料理屋が花代値上げのことなんかで大喧嘩をして見たり、境町多年の懸案である隣村上道村併合問題も政争が交つて容易にグレート境町實現の曙光を見ないが、この併合問題など彼我町村の將來の爲めだ、お互の内輪喧嘩は見ともない。

明治三年境村を町と稱するに至つてより今日まで可成發達した、現在人口七千人、主として商業を營み商人は機敏で商賣に熱心であり、肥料海産物米穀呉服反物の仲買及問屋業が多く遠く北海道朝鮮までも販路を有してゐる。随つて米子商人よりも特色とすることは自己の勢力だけの報酬に甘んぜず一攫千金の夢をみる可成太腹なところもあるが、「人の股でもくゞる者でない」と役に立たぬ」を標語として、すぐ喧嘩腰になりたがる人間に似合すその考へだけでも持つて奮闘してゐるのは感心の至りど申すもの。

港は山陰第一の良好のみならず日本海沿岸に於ける新潟敦賀と共に有數なる良港にして、右は美保

の關と左は中海の各々の美景によつて連り一大港灣をなしてゐる。これを外港と内港の二つに分けるが、内港の方は今より二十四年前縣は四万七千圓を投じ、海岸荷揚場の修築をなし二間の荷揚通路を造築して小港とし頗る安全なものとなし、外港は燈臺より海上二哩美保の關の沖に位し軍艦や汽船が碇泊し得る。而して今や政府は相當なる豫算を以て修築の一大工事に着手し、その完成の曉には對岸なる鮮滿及浦鹽斯德との屈指の貿易港となり、境はもとより米子、鳥取、松江等山陰道一帶の繁昌のみならず中國開發盛榮の起因をなすものと期待されて居る。この活路を見出すに遠くないときに當つて境町には貿易港たるに充分の施設の計畫があるだらうか。幾多の繁榮策としての計畫に對し一考再慮し、將來山陰の神戸横濱になさんとするの覺悟が必要である。

さて現在の境には測候所、税關支所、燈臺、水上巡查派出所、逓信局海事部出張所の如き港町にある特種なものがあるだけで、大きい商店も會社もあまり多くないが二十有餘の會社と名のつくものがあつて町に比較すると頗る多くも思はれるけれど、これぞ銀行も印刷所も運送店も或ひは商店を會社名にした小規模のものも加へてである。而し前書いたやうに可成販賣を廣く持った個人商店もあるが又まづ乍ら遊廓ありて船頭さん相手に船着場らしい情緒を流してゐる位ではつまらぬ。而し名所なり勝景地は多くあり、第一に昔後醍醐天皇隱岐に御遷幸の際この地に御臨幸あつた史蹟も留めてゐるし、餘子、大港神社、光祐寺あり、小さい乍ら鈴垂城趾に至れば、美保灣弓ヶ濱の白砂を曳きて

優美と、大山の雲霞を突いての雄姿との風光絶美は真に傑れたる繪畫の如く、港灣を往來する船舶を眼下に收めて山水明媚の地である。其他近くには美保の關あり、又夏季旅行を兼ねて遊ぶに適す隱岐の西郷港もある。隱岐は本港の寶庫である。斯ように名所もあり、又境そのものがすでに勝景地のうちにあるのだから、もつと萬客を招來するに足るこれ等に完全なる設備をする必要がある。兎も角境町の今後は多事多忙である。

出雲新唱

——安來節にならひて——

生田 春 月

松 江

たれを松江と、とふ人あらば、わたしや揖屋だと、玉つくり。

關 まゐり

關にまゐるか、杵築に行こか、ひとりものなら、關に行け。

宍 道 湖

心中しましよか、あなたとならば、湖は名さへも、宍道うみ。

白 帆

關へ關へど、白帆ははしる、關は女郎衆と、惠比須様。



五、倉吉の巻

大正三年より十五年までの十年間に約千六百人の増加を見てゐる倉吉町は現在一万三千人、縣下の他の市町に較べて發達の度多きを見ても米子に次ぐ活氣ある町とする、打吹公園山の上で四五人で倉吉は明ると評語した事があるたしかに發展の見込がある人物養成倉吉を天下に紹介する事倉吉と上井間に工場を櫛比さす事、而して工業として山陰製糸あり、山陰紡績あり、主として生糸、醬油、清酒、稻扱を産す。有名な緋はそれ等を販賣或ひは製産するところの會と名のつくもの二十數を擧げる。やはり工業地だけあつて町全體の空氣は明るいが、たゞ頽廢的な氣風があるのは遺憾である。雜居地的の人情の冷薄や教會的の華やかな裏面の頽廢のそれでは勿論なくて、卒直純朴の田舎々した倉吉人にあるのであるから救ふことも出来ようが、下層社會には一般に沈酒の風があるといふは嘆かましい最も酒の産地だから幾らでも飲み放題といふわけでもあるまいが……。それから嘆かましいのにも一つある、曖昧料理店の多いことには一驚するがこれまたここに巢喰ふ白首の多く、白晝横行して淫

風を流してゐることだ。ある町の如きはこれによつて純然たる遊廓の形を備へてゐるが、其の前でもこれ等の白首には「酌婦」といふ鑑札を與へて娼婦の役目をさせてゐる。それでも時々は風紀紊亂の廉によりてなわけで檢舉する。それはとまれこの白首のだらしない服装を見真似るわけでも無からうが一般の婦人の服装が奢侈淫猥であり、又教養の乏しい青年などには屢々色道で問題を起す。斯くしたことによつて可成町に淫蕩頹廢の氣分が漲るのは困つたものた。四五年よりそれを遊廓のない爲めであるとしてその設置も叫ばれてゐるが、これなどは世運の進歩と人心の道德律の上から見て眞に嘆かばしい矛盾した問題であるが致方がないとするのは残念である。

筆者は常に一般人の服装によつてその地方の風俗その地方人の教養、或ひは教會的文化の侵入の程度などを直觀するに興味を感じてゐるものであつて殊に女の服装に著しく現はれるが、倉吉を一瞥すると。女には耳隠も斷髪も、けばけばしい柄の着物は少なく、やはり桃割髪に紫の前掛といふのもあながち町家の多い故ではないが、未だそうした都會的の派手な流行が浸入してゐない。鳥取米子のあらゆるものゝ都會化しつつある傾向に對し、倉吉もいまにそうしたことになるであらうけれども、これはもとより單に服装、趣味の表面的流行とするものゝ、これからによつて追々他の都會の文化が浸入されることは(勿論地方の都會化と云つてもそれが全部結構なることであるとは云へないが)地方の開発を促すことにもなると思はれる。

當町には幼稚園、中等學校、女學校、農學校、或ひは保兒院もあり圖書館など、一通りの教育及慈善機關は設けられてゐるに係らず概して一般人の文化に遅れ、程度の低いと云ふは前に書いたやうに耽酒の風や、賣笑婦の著しく多いことや、婦人の服装の花柳界的の身装りに現はれた低級頹廢の風によりて認められるが、これなどは一體の精神的なる文化事業の不徹底の致す所以ではなからうか、教育家、宗教家等の有力識者の活動を待たねばならぬことであらう。とまれ商業に、工業に、將又文化事業にまた一段の進展を加ふる上に、町民の奮勵を期待せねばならぬ。

町の地勢は、打吹山の古城趾と潺々たる小鴨川の清流に沿ひて在り、幽趣靈跡頗る多く天然の美景に恵まれてゐる。之を利用し觀光客を吸引する策を講せねばなるまい。これに就いて一寸思ひ出すのは、三朝温泉へ連絡してゐる三朝村營自動車と、倉吉自動車會社とが二三年前客引に猛烈なる競争し驛を下りたる客のその爭奪戰の甚しいのに少からず面喰つたことがあつたが、これなどはもとより兩方の感情の衝突の結果であるが、一時は無料で三朝へ案内し其の上旅館の滞在費もお歸りの汽車賃まで差上げようといふ位の氣勢さへ見せたものだが、これは冗談としても、これなどは馬鹿げたことでそれだけの努力あれば完全なる吸引策は講じられさうなものだ。

閑話休題。斯やうな地勢に在る倉吉には名所も相當にあり、まづ第一に峨々と聳えてゐる打吹山城趾を擧げよう。こゝに公園を設置したのは明治三十六年東宮殿下立妃の御慶事の紀念事業としたもの

であつて、設備の完全、規模の廣大、風光の佳美なること山陰第一とする。東伯式が殊に春は觀櫻客で賑ふので、その櫻花の多きこと隨一でこれを以ても立派な名所とされる。但し全體の風光は閑雅靜趣で、場所柄を考慮してうれしいことはこの公園に圖書館を設けたことだ。その西方には物産陳列場あり、大江神社もあつて、光格天皇の御生母を祀るので名高い。更に公園らしき美觀を添へてゐるのは音樂堂のあることだ。さしづめ最近出來た鳥取の久松公園のやうにこうしたもの、設置もなく較べて鼻を高くする事が出来る。その音樂堂の南方に向へば二丈餘の青銅の戦死者忠魂碑あり、碑文は山縣有朋公の書するところ。又その下段の方に大廣場があつて運動會などに適す。そこには泉水、橋、小亭を備ふる庭園あり、こゝに至れば遠く日本海を臨みて隱岐の島、西に大山の雄峰、東に小鴨竹田川の清流を一眸に收め、また眼下に倉吉町を見て眺望頗る佳い。倉吉町はこの公園一つで立派に名所を代表されて居るが、其他に賀茂神社、長谷寺なども景色はよい。序だから三朝温泉も紹介せねばならぬが、倉吉より二里餘自動車の便があり、三朝川の潺湲たる清流に沿ひて堂々たる旅館の並ぶ三朝温泉は、米子皆生温泉の勝景地に一步を譲るとしても、美くしい山と川の閑靜雅寂な景趣は捨て難くまた淫蕩な氣風のなのはまづ嬉ばしい。それよりも東洋第一のラヂウム温泉であることで、世界のそれに於ても伊太利イスキヤに次いで第二位にあり。温度はイスキヤよりも高い。保養客にとつても俗化してゐないので近時心よく入湯する者著しく多い。次にはこれまたラヂウム温泉として世界の第

七位に次ぐ關金温泉も發展しつゝある。其他の名所として伯耆の大山寺と共に有名ある三徳山の三佛寺あり、既に千二百有餘年を経つた今日なほ基礎嚴然、堂は保護建造物、本尊金剛藏王は國寶とされ其他古銅鏡及他に納經堂、地藏堂、文珠堂は保護建造物とされ境内廣潤にして幽邃靜閑である。柿の花の咲く春霞に煙つたこの山に、紅葉の美しい秋の日和にこの寺に巡禮姿の信者達が、三徳山の寺堂にお籠する者多く、或ひはまた杖持つ風流達によつて參拜する者が多い。

其の他にも處々名勝跡も少くない。

倉吉町とさよならするに當つて、名物は清酒、倉吉餅、公園だんご、美婦久餅、ラーム館、三徳山わざび未知數にあるこの町の今後益々一段の般賑に赴かんことを希望しよう。

三朝の温泉

- 一、三朝温泉 サウナ、温泉、ラヂウム温泉
- 二、三朝温泉 サウナ、温泉、ラヂウム温泉
- 三、三朝温泉 サウナ、温泉、ラヂウム温泉



本縣出身者と縣人

接觸の機會を作れ

本縣には人物が少い、最近迄は知事級の人物すら種切れの体であつたが、此頃漸く勅任級の人達が續出しかけた、新任の〇〇縣知事〇〇君は其一人であり、仙臺鐵道局故

▼米原竹治郎君も其一人、亦下の

關鐵道局長寛正太郎君も同様、臺灣總督府土木課長多賀奈良吉君、勅任であり、京大教授法學博士佐々木惣一郎君及廣島高等師範教授文學博士西晋一郎君の勅任待遇で閣下株である、軍人の方では内山大將が圖抜た出世で、陸海軍將校は少將即ち閣下級に

▼ヘシ昂ると忽ちヘシ折られて首

になり、現役少將は稀な有様である敢て本縣に人物はないではあるまいが、因伯蔓は育ちがよくないやうである、併し今後の本縣には相當人物が出るであらう、鐵道方面には前豊田收藏君あり、外交方面には澤田廉藏君及澤田節藏君の兄弟が

▼轡を測べて活動し前途必ずや一

廉の外交官として重きを爲すべく期待されておる、而して是等地位を得つゝある人々は多く故奥田義人男の世話を受け、指導を蒙つた人だといはれておるが奥田男逝いて本縣の子弟、本縣後進者の面倒を見る人は少いといふより

▼も寧ろ絶無での姿である併し官

界にも學界にも實業界にも相當地位ある人を増し、相當勢力を有するに至りつゝあれば是等の人と同一步調を取り、本縣の子弟、本縣の後進者の面倒を見、後進者亦是等先輩誘掖に信頼するに至らば、今後人物を輩出し得るであらう

▼尙前述以外本縣出身者には博

士たる人相當あり、學士に至りては屈指に達ない程の數に上つて居る、然るに是等の人達と縣市民と接觸する機會なく、偶々遇つても双方路傍の人の如き冷淡な態度を執つておる、之が本縣の出身者にも影響し

▼何方も勢力を作る事の出來ぬ因

を爲しおるやうである、勢力を作るといへば語弊あり、薩長の如き閥を作るものと思ふ人あらんも、人物を作り、其人物を大ならしむは勢力を有する、而し其の勢力は縣の出身者と縣人が常に親しい交際を爲し、共に相扶け行くといふ事が必要であるまい乎



本縣出身者と縣人

郷里に歸住する人少し

本縣出身の縣外居住者と縣民殊に先輩と後進者の間に聯絡なく疎遠になりつゝあり、亦先輩中進んで後進者を世話し、面倒を見てやるのが極めて少い、之れは本縣の勢力

▼本縣の發展に影響する面白から

ざる現象である事を述ぶるや、東京市在住の方よりも意見を寄せられたが、縣外在住の本縣人が郷土に冷淡なるに非ず、進んで世話をすれば種々な事を依頼し、亦何かあれば直ぐ寄附をと來る、ナンでも力でも郷土の世話をし、郷土の犠牲となるは

▼當然のやうな考へて果ては少

からず迷惑をかけ、而も其迷惑を何とも思つて居ない風がある爲に郷土の事にはチヨト手出しも口出しも出來ず、結局さはらぬ神に祟りなしの敬遠主義を取つておるのだといふのが多いらしい、而して是等の事は毎々聞かされる所であるが

▼世話になつて後をかまはぬは未

だし、其人に迷惑をかけながら其儘知らぬ顔でおる、郷土の人が之れでは、縣外在住の本縣人も迂濶に縣人の世話は出來ぬであらう、縣外在住の本縣先輩と本縣人との間が遠くなりつゝある原因は固より種々あらうが要するに

▼双方相信頼する念と、世話にな

る方で迷惑をかけてはならぬといふ遠慮と誠意が薄い爲であらう、併し本縣出身の成功者中にも全然郷土を思はぬのがないでもない、相當位地ある人にして本縣に起る問題に盡力せりや、亦相當の位置に出世し退職となりし人の中

▼郷里に歸住しおる人幾人ありや

多くは京都其他に居を占め、郷土に歸り郷土の事に盡力しおるは極めて少い、久しく縣外殊に大都會の生活に馴れた人が、地方に燻りおるは苦痛で、馴れた地方に餘生を送りたいといふ家庭上の都合もあらうが、相當の位置に進んだ人達が

▼郷里に歸り郷里の者殊に青年を

指導誘掖せば、地方を開發し、地方の文化を向上せしむる上に非常に有効であらうと思ふ、然るに地方に歸住し地方の爲盡力する人の極めて少きは遺憾である。

中心人物と團結力



鳥取縣にはそれが無い

奥田博士を失つた鳥取縣には中心人物となる第二の奥田なく、中央に對する勢力微々たるはいふまでもなく、縣市に起る問題の相談相手もなければ指導者もないといふ現状は、縣市に取り甚だ不利である、斯くいへば

▼中央に位地あり、勢力ある人に絶

るのは依頼心である、第二の奥田なくともそう悲觀するには及ばぬと冷笑するものもあらうが、記者のいふ縣市の中心人物而して中央に勢力ありし奥田博士の如き人を得たいといふは、それに絶つて有利に縣市の何事も計りたいといふのではない

▼地方には地方としての團結力と

いへば、或ひは語弊がある乎も知れぬが、苟くも地方の文化、地方の産業に關係ある問題に對しては、一致の目的を達する意氣と熱心があらねばならぬ。それには相談相手となる眞面目な人、郷里を衷心より愛して指導して呉れる人を要する

▼鳥取縣出身として中央に勢力の

ある人がないでもない、加藤正義君の如き内山大將の如き、亦實業家としては明治屋として知られた磯江長藏君の如きもある尙其他手を屈すれば相當位地のある人を見出さぬでもない、併し是等の人が我縣市に何程の交渉ありや

▼縣市の問題に對しては固より縣

人の世話でもしておるやうな人は餘り見受けぬのでない乎、縣市重要な問題に對して相當の位地にある縣市の出身者が冷淡に構へておれば、成功し得る事柄でも遂に不成功に終る場合がある、地方の利益問題なら無理でも押し通せどはいはぬ

▼併し正當に要求すべきものは遠

慮なく要求して縣市の利益を計らねばならぬ、それには内外呼應し活動する事が肝要である、爰に於て中心人物の必要が起る、然るに奥田博士を失つて以來鳥取縣には中心人物がない、其上反目嫉視を事とする弊甚しき爲

▼一致團結事に當るといふ意氣と

熱心なきのみならず、中には他の弱點を發て己れの功名をせうといふサモシイ心掛けの者が尠くない、之れでは何事も出來ぬであらう、中心人物とぞして縣市民に今少し團結力のありたい事を望む。(因伯)



縣民の努力を

五〇

山陰人士は陰鬱な心をしてゐて何となく交際がしにくいとは吾々が度々聞かされる所である私は御同様に此言を非常に遺憾に思ふ併し乍ら此言は一面の眞理では有るまいか本縣出身の名士の比較的少いのはそも何を語るものであらうか團結心に於て愛郷心に於て敬虔の念に於て他縣人に比して劣るものが有るではなからうか鹿兒島縣人が常に一致團結熱烈なる愛郷心と敬虔なる心を以て奮闘して居るが如き又山口縣人が強固なる自尊心と熱誠なる愛郷心とを以て努力して居るが如き吾々が三思すべき所であらうと思ふ。

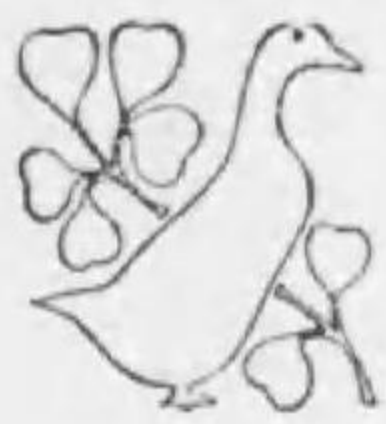
某市に於て開かれる鳥取縣人會に出席して居る或人が云ふ『本市の縣人會に於ては鳥取人士の缺點の一端をよく表して居る地位の相當に高い人々は上席に一團となつて勝手に話して居て他を振向きもせぬ。

他の人々は隅に少さくなつて話もせず謹んで居て縣民の和衷協同一致團結を圖るといふ立派な主旨を徹底的に實現させようとする様な風は一向に見ぬ』と又或人は云ふ『本縣人は面倒を見てやる甲

斐がない少し様子がわかれば直に飛び出して振向きもせぬ』と實に恥かしい話では無いか。

吾々をしてかゝる陰鬱な偏頗な思想を抱かしむるに至つたのは吾々の實境であらうと思はれる元來一地方の實境が其地方に及ぼす影響は非常に大なるものである其作用は遺傳的であるばかりで無く尙個人的で其各個人に對する作用は實に重大なるもので有る佛國の社會學者ジマクスウエル氏は之を説いて云つて居る『花崗岩質に富んだ霧の深く鎖して居るブルターニュ(北佛蘭西に屬する地方)は石灰質で太陽の光の輝けるプロヴァンス(南佛蘭西に屬する地方)とは自ら其趣を異にして居る如くブルターニュ人の心理状態はプロヴァンス人のそれとは非常に相違して居る』曇天の多い山陰道に育つた吾々が陰鬱な偏頗な心を持つて居るのは此處に其根元を見出し得るのである併し其處には又有利な影響を與へる所も有つて都會人士が徒らに浮華輕佻に流れ易い弊があるに反し山陰人士は隱健着實な所が有るのである吾々は此實境の與ふる影響を善用しなければならぬ、其處には吾々の努力が必要なのである努力は吾々に附せられた天然の條件を或程度迄變更することが出来る不利なる天然の條件を以て生れた寒帯又は温帯人種がより有利なる天然の條件を有する熱帯人種を征服したのは畢竟其の努力の賜である、翻つて吾々は熱烈なる愛郷心を持って常に本縣の後輩の爲に盡力して居らるゝ人々に對して感謝する事を忘れてはならない故奥田男の如き豊田氏の如き又本市に於る川上氏(東伯出身)の如き吾々がいくら感謝しても尙足りない人々である。

石田法學士が倉吉町に於る講習會に御出でになつた時に故奥田博士及び佐々木博士が本縣出身である事をお話した時『本縣から實に立派な法律學者を出して居るね』と云はれて何とも云へない嬉しさを感じた冀わくは努力して鳥取人士の名を挙げたいものである。在神戸佐々木生



鳥取式と米子式

往時希臘にスバルタ及びアゼンなる兩都あり、一國內に於て互に隣接し居れるに關らず、住民の風格は全然反對にして前者が勇敢の性を質素の風を以て其特色となせるに對し、後者は文雅と豪華とを以て其氣風となす。兩者市風の相異なる事、晝夜、黑白の如し。今鳥取米子の兩市をとつて、互に比較するに、その相違の甚だしき、或は前述兩都の隔絶以上にあらむ。

鳥取の市民が概して品藻高尚にして、尙武の風に富めるは、恰かもスバルタの特風に似たり。米子の市民が文弱にして、浮薄、卑吝の風あるは宛然アゼン人の再來の如し、鳥取は舊藩時代より、士風の尤も盛なる土地にして、近時に至りても尙且つ尙武の風あり、士族は素より商人と雖、品位比較的

高尚にして、米子商人の卑吝なるに似す。只その弊とする所は、胸懷狹窄にして、人を容るゝの量なく、隱忍にして妬心強し。鳥取を代表せる前藤岡市長の如きは、鳥取の美點をのみ代表し、更に夫れ以上。鳥取人としては希有なる社交的手腕を有す。本部泰翁の如きも、鳥取の武士道は遺憾なく代表すれども、其欠點に至つては毫も之を見ず、上流人士にして比較的鳥取全部を代表せるは、後藤直義氏なるべし。その頑強にして好論癖のある所、稍々理想的鳥取人士たるに近しと雖、しかも彼れは些の陰險なく、些の妬心なし。見るべし、鳥取人士の惡癖は主として、下層社會に其跡を止め、上流社會は之等の惡癖より全然臘脱し、鳥取固有の美風の上に、更に他の何物かを加へて、漸次向上の一路を辿らんとしつゝある事を。之に由りて觀るも、現在の鳥取は決して成熟したるものに非ず。云はゞ生長、發達の途程にあり。所謂鳥取風、鳥取式なるものは、目下決して完全なるものに非ず、現下の鳥取は云はゞ都市の孩兒なり將來圓滿なる發達を遂て、初めて一個完全なる都市たるを得へし。鳥取市の前途や實に洋々たりと云ふへし。

眼を轉じて米子を見よ。規模素より小なりと雖、しかも其風格頗る鮮明にして、全然成熟せるが如きものあり。成熟せる都會は、過去に於て永き歴史を有するを普通とせるも、獨り米子に至りては然らず米子は鳥取の古色蒼然たるに比して、殆ど何等誇るべき歴史を有せず、風俗も習慣も悉く近來固定したるものなれども、而も米子風なる一個圓熟せる特風を確定したり、米子人士は如斯早熟の市民

なれども、氣局極めて狭小にして、針よりも尙小なり。鳥取市は尙發達の途程にあれど、米子は既に發達の頂上にあり。年次重ぬるに従ひ、漸次衰退に赴くべきや明かなり。米子人士は自讃して米子は「小浪華」なりと云ふ。時間と金錢とを尊重して、極力活動する商人氣質、近時の所謂成功者氣質ある所、大阪に酷似せりと雖、大阪は流石に永き歴史を有する大都會だけありて、貪婪、卑吝の中、自ら一種の格式あり、俠氣あり、大様の風あり、平常は厘毛だも吝めども、時として千萬金を蕩盡して惜まざる事あり。米子を目して「小浪華」となすは、大阪の縮圖を意味するに非ずして、大阪の糟粕を意味するに非ずや、さは言へ米子にも長所あり、美點あり、その一意努力して金儲の上手なる所、實に山陰の都士中第一に推すべく、山陽にも岡山、廣島を除けば米子に匹敵すべきものなし。されど人間道徳の全部は決して精力主義のみに非ず、勤儉貯蓄と共に、實に高尚なる人格を要す。商才と共に士魂を要す。米子として實用の地たらしむると共に、更に趣味の地たらしめよ。必要の土地たると共に、なつかしき土地たらしめよ。今日成熟せる米子も、市民の心機一轉と相俟つて更に大に發展向上の餘地はある也。長所は長所として飽く迄も之が發展を計り、短所は悉く之を捨て、將來尤も健全なる發達を期せざるべからず。吾人は殊に米子人士として、尤も常識に富み尤も進取思想の豊かなる後藤快五郎氏に向つて之を望むもの也。(宮地竹峰)

團栗の脊くらべ

鳥取縣が生んだ

水平線上の人々

大人物の出ないわけ



お 國 自 慢

次に學界に活躍してゐる人は如何博士號をもつてゐるには京大の佐々木惣一氏、廣島高師の西晋一郎氏、東北醫大の藤田敏彦氏と東大醫科の橋田邦彦氏、法博桑田熊三氏と文博桑田芳藏氏は揃ひも揃つて兄弟の秀才である、九大の下田光造博士は前代議士下田勘次氏の令弟、東大の加藤正治博士は實業家加藤正義氏(日野郡出身)の令息、京大名譽教授の醫博伊藤隼三氏は目下郷里鳥取市で病院を經營してゐる、醫學博士には有馬頼吉氏、野谷昌臣氏中本誠一氏、入江英哉氏、田中筠彦氏(侍醫寮御用掛)原田重雄氏(廣島病院長等)があり、また帝大教授の入澤宗壽氏も近く醫學博士たる人である、その他二三文士をもつてゐる人があるはずだがチョット思ひ出せない。

x

x

x

實業界には案外人材が出てゐない東京明治屋の磯野長藏氏、臺灣銀行副頭取の森廣藏氏等が圖抜けて目立ち、之につぐは太平洋炭礦の木村久太郎氏、鴻池理事の野々村政也氏、北米ロスアンゼルスで

新聞を經營してゐる田中彦三氏下つては明治火災保險の押本重平氏、東洋生命保險の大原萬壽雄氏、水産業に成功してゐる徳田平一氏、大阪の實業家山本藤助氏くらゐしか記憶に上らぬ。

更に文壇に活躍してゐる人を見る古いところでは評論家の生田長江氏があり、新らしいところでは創作家の加藤朝鳥氏と野村愛正氏があり詩人としては生田春月氏が聞けてゐるが野村氏近來振はず早くも文壇から忘れられんとしてゐる近ごろ大衆文藝作家として賣出した白井喬二氏も我郷土が生んだ人で、曾て八頭郡長であつた井上孝道氏の息子である。

操觚界にはアジアヘラルドの頭本元貞氏、都新聞の大谷誠夫氏、英文日々の稻原勝治氏が著名である官界方面には一層人材が輩出せず僅に鐵道省監督局長の寛正太郎氏大阪府内務部長の吉村哲三氏、樞密院書記官の村上恭一氏が現役組に過ぎないのは心細い、外交官には前途を囑望されてゐる澤田節三氏(米國大使館參事官)あるのみ、最後にスポーツ界には早大の山崎選手と明大の湯淺投手が帝都球界に氣を吐いてゐるのはせめてもの心強さを感じる、以上ザツト本縣が生んだ水平線上の人々を網羅したが筆を擱くに當り人物寂寞の感を久うした。(大朝)



此の風習は良くない

吾々の郷土たる鳥取縣の振興を計り、若くは同縣人が親睦を敦くする方策に付いては種々の形式がありませう工業を起すのも結構、縣大會を盛にして大に意思の疏通を計るのも良い事です。

只積極的に種々の施設を進めて行くのも結構ですが、其前に當つて大に考慮すべき事があります、それは多數縣人中に於て稍もすると同郷人の成功を嫉視中傷すると云ふ風がある事であり、之は何でもない事の様ですが實は大問題であつて、所謂成功者階級から云へば甚だ氣持の悪いもので何も特別の尊敬もいらぬ代りに此の風だけは奇麗に取り去つて、御互が一日も早く成功する事を心懸けて行くべきであらうと思ひます。

又少壯階級から云へば縣人に斯る風習ある時は熱烈なる成功慾に一抹の暗影を投ずるものであつて、御互に縣人の志氣を萎微する事が甚しい事と思ひます。

此の風習は勿論獨り本縣のみではない様です、曾つて群馬の田舎から飛出して今政界で名を成して居る武藤金吉氏は縣人に向つて『吾縣人は縣出身の成功者を嫉視中傷する癖があつて駄目だ』と叫んだ程ですから各府縣に有る事と思ひます、之は或程度迄は人情の弱點かも知れないが、一轉して山口縣

鹿兒島縣等を見るに實に同縣の能く親睦し、能く扶け合つて人材養成に努めて居る事實は吾々の常に羨望の情に耐へない所であります。我々は我縣人も一日も早く斯くならん事を願つて止まない所でもあります。(水落慶雄氏談)



縣人は無慾無策だ

鳥取縣不振の聲を聞くに付けて吾々も何とかして縣の發展を考へて居りますが困つた問題です。それに付けて私共の經驗上痛切に感じて居る事は非常に慾が少い、無慾です、此の無慾は誠に立派な事ですが實業方面では却つて弊害が少くありません、私は數年前から鳥取で製繩事業をやつて居ります、之なれば原料が豊富だから比較的安價で無制限に買入れられる、も一つは勞銀が安いから態々郷里鳥取を撰んだ次第です、非常な期待を以つて仕事を開始して見ると豫期に反して案外成績が良くないなせかと云ふと。

第一、勞銀は安いが生活が容易な爲めか缺勤者が非常に多い。

第二、従つて機械の全部を運轉する事が出来ない

と云ふ次第でありますから例へば二百人の職工でよい所でも三割増しの二百六十人を雇つて置かぬと全能力を發揮する事が出来ない云ふ結果になります、そうなつて來ると勞銀の安いと云ふのは何等利益ではなく、又職工側の方でも勢ひ多額の賃錢を得られない譯で、双方の不利益であります、之は郷里の人々が大に考へられねばならぬ事であつて、縣の經濟的に大發展をしないと云ふのはこうした小さい事實から結果して居はしないかと思はれます、詰り無慾の祟りであります。

次によく鳥取地方には事業が起らないと云ふ嘆聲を聞きますが、其れでは資本さへ持つて行けば良いかと云ふに、第一困る事は動力の貧弱な事です、之が非常に少いので時間の制限があつたりして到底大事業は始められません、鳥取が大工業地たらんとするには何より此の動力を先づ充分供給する設備が肝要です。(天滿紡績専務山本三郎氏談)



出稼人の見た鳥取市の側面

故郷の鳥取を去つて早や十年、十年一昔と言ふ諺もある。

歐洲戰亂以來今日に至る京阪神は、異常なる大發達を遂げた、就中阪神地方の工業は各種の事業が勃興して、其技術も進歩した、此發達の状態を見聞して居る私の眼に映する我鳥取市は、舊に依て舊の如く閑古鳥が鳴くと言ふも、強ち酷評ではあるまい、汽車が通じて茲に十有餘年、商業振はず工業興らず、依然として翠緑の都なのだ。

一體我鳥取市は地勢上昔から鎖國的氣分が重く、進取の氣象を缺き、因循に陥り易いのは免れ難い處なのであるが、之れは一般的の觀察で、然らざる人士も多いのであるが、之れを他都市に比すれば、此感を深からしむのである、今縣下の市邑を京阪神に當て篋めて見ると、鳥取市は京都、米子町は大阪、境は神戸の小なるものに似て居り、現在の人情氣風等から見ると、京阪神の各一部分を此三地に移した様な風であつて、米子町の商工業は近頃非常に發達進歩して、活氣を帯び出したのである、我鳥取市も恰も京都市の如くだ、夫れでも京都市は六大都市の一つだけあつて織物は古來から有名で漆器陶器も製造せらるゝ、近頃では各種の工業が盛んになつて居るが、大阪市に比すれば問題にならぬ、併し我鳥取市の如きは京都市の足許にも寄り付けぬ位であるが、一寸引合ひに出した迄である、夫れなれば我鳥取市は如何にせば可なりやとの問ひがあつても、私に於て果して之れがと云ふ事業を指摘する丈けの見識の持合はせもないが、此等の市民中の有識博學多才の士が宜しく先達となつて、研究せらるゝの價值もある事で、既に〳〵調査研鑽せられた事であるから、今更私如き若輩者が

容嘴すべき限りでないが、兎角刺戟の少ない處では如何なる識見を有する人でも、其智識を發揮する事が溢るもので、昔から住めば都とかで其氛圍氣に慣れては其觀察が正鴻を得難い事が多く、却つて側面觀が能く其實勢に適應する事が多いのである。

季候の關係か鳥取人は、活動する事が少なく、金の二三萬圓儲けたら、之れ迄商賣した人も急に隠居心を出し、商家の場中も構はず、格子付の素人屋となり、田地の少しも買込み、懐手に摺傘丸で暮す人が多く、用なしの文句言ひで、糞でもない事に屁理屈を付けて時間を潰す癖があるから、市會の如き何時でもゴタ〴〵が絶えず、市會が私會となり酒會となつて、海老亭や花月、など繁昌する、市長は無暗に交る、代はるから事蹟が揚らぬ様な次第である、之れは妙な處へ脱線した。

事業が起らぬから働き人は仕方なしに他國に出稼ぐ、其一例は昨年の國勢調査で明かに説明して居る、他の都市の人口の増加に比して鳥取市の人口は如何に、比較的増加率が少ないではないか、今數字を列べて説明し難いが斯かる現象では到底發達は覺束ない。

尙鳥取人の悪い習慣は人が何か新事業を起さんとすれば、盛んにケナス、ケナさぬ迄も蔭口を聞く、詰り嫉妬心が強いのだ、其一例は故木村安藏君が鳥取電燈を創設する際だ、眞に東奔西走席暖まる暇もなく熱心に活動したが、市人の因循姑息な事に愛惜を盡かして、寛仁大度の君でさえ一時は中止せんかと思ふたど窃に近親に洩らした位であるが、石谷翁其他に激勵せられて完成した、今では押

しも押されぬ唯一の會社で堅實に發達して居る。

さすれば鳥取では如何なる事業が適するか、私は何々と明答する事は出来ないが、到底鳥取市は商業地ではない事は一般に首肯せらるゝ處である、然らば剩す處は工業であるが、其工業がナカ／＼六ツかしいものである、私の貧弱な眼に映じた處では、鳥取地方での産物を利用するもある、鳥取縣の主なる産物としては、米、生絲、木材であるが米は加工の必要は認めぬから、生絲、木材である、生絲木材の加工地である長野、北陸方面の養蠶地が、近年異常なる發達をなしたのは絹織物ではないが、製絲事業は稍や發達の緒にあるか、猶其上に加工すれば餘地數多剩されてあるではないか、又絹綿交織の如き販路は充分ある。

さて之れが販路に就ては京阪地方に出しては他國との競争が烈しいから、私の考へでは朝鮮の北部に求めるので、朝鮮の北部にはマダ充分販路がある、殊に民度の低い朝鮮も次第に文化が侵入して相當の需用を喚起する事は明かであつて京阪地方から年々移入して居る品物は相當あるではないか、夫れと同時に朝鮮北部の産物を利用するのである、幸ひ輸出には境港を控えて居る事であるから運賃の關係上からして充分京阪地方の品と競争し得るものと思ふ。

木材も其儘で縣外に移出しては利益が尠ない、之れを戸、障子其他家具として移出すれば相當の利潤が見られる、目下京阪地方へは、和歌山縣の南部及福井縣等から相當の數量を移入して居るではな

いか。

又製紙事業を奨励しては如何にや、狡い阪地の商人は因幡紙に土佐紙のマークを貼付して賣出して居るのではないか。

要するに懐手して銀行利子で、飯を喰ふて行く考ではいかぬ。ブルヂョアで今後は立往かぬ宜しく活動すべしだ、工業が盛んになれば従つて他國から人が入込む自然需用供給關係上商業も賑はしくなるは理の當然である、覺めよ鳥城人士。朝夕久松山の翠縁を眺め池田侯のお袖に縋るのが能でもあるまい。(妄言多謝)神戸湯山生 (因伯及因伯人)



因伯武士道の氣風

本藩の藩主池田光仲公は天性武勇智略にして、文武の名士を登用せしかば、忠勇高節の士風を振起す。其基礎確立す、歴代の藩主其時の遺教を繼承し、武士教育真髓を極む、上下簡易質朴勇敢義烈たり。年を経るに従ひ藩主漸く武術のみに偏し、文事を輕んずる風あり、七代重寛公寶曆七年尙徳館を

創立し、文武兩道を修養せしむ學校教育是れより始まる、第十五代慶徳公英敏水戸學風を鼓吹し、幾多名士輩出天下に表彰せしは此時なりき。

武家の風習

武士は面目を以て生命とし、面目を汚穢することあらんか、名は武士にして、其實を失えるものなり。故に武士たるもの其面目を全うせんが爲に、一身の安危を顧るに違あらず、上は法の上より下は武士相互の峻烈なる制裁を極む、打首、切腹、追放、閉門、遠慮、差扣、急度、呵責等にして切腹の如きは實に名譽恢復唯一の道にして、主君に對し、家族に對し、社會に對し、自身に對し、身を殺して始めて其罪を償ひ得べきものとせり。其行動簡易明裁の觀あり。

武士と平民、武士は一朝大事あるに當り潔く君の馬前に討死すべき覺悟を以て修養せり。其心高潔従つて相互の威嚴を保たざるべからず。

武士と平民との間嚴然として犯すべからざる階級ありしものなり、家中法度に即ち妄りに農商の家に立ち入るべからずと云ひ、平民と妄りに贈答の交際を結ぶべからずと云ひ、農商の業に妨害を及ばすべからずと云ふか如き、何れも武士の暴慢を堅く戒めし所なり。峻烈なる特權を有す故に若し平民にして、武士に對し過言反抗等を以て侮辱を加へたるときは武士の一分立ち難き事情に差し迫まりたる時は、忽ち一刀兩斷の處置に出でたるものなり。所謂切り捨て御免とは斯かる場合の處斷を稱せし

なり。若し武士にして正當の事由なく此の特權を濫用せんか其の制裁は甚だ重く、事情により追放、切腹の重科に處せられ、又武士に對し無禮侮辱を加へらるゝも、敢て一刀兩斷の處置に出づることを得ずして遂に面目毀損に終らんか、是れ又甚しき制裁ありしものにして、追放、切腹然らずんば武士間の絶交となりしものなり。

武士の家庭

一般に武士の家庭は最も嚴格に保たれたり、父は嚴にして母は慈假令其の家風の異なるによりて其寛嚴の度の多少の差ありと雖も、少年武士の品性は何れも此確固たる主義により基礎を作られたるもの也。武士幼年の時は専ら母の慈愛により養育せられ、座作進退の容儀を學び、漸く長じて文武の教育を受くべき期に至れば父は之に卑劣を戒め、惰弱を責め謹直にして禮に従ふべきを教へ、長者を尊び、服従の徳に慣れしむるに務めたり、其教ふる所實行を主とし些少の過失たりとも假借することなく、責任を重く問ひて以て時に義理人情を没すも顧みざるの處斷に出づること少なからず、慈母は戦々競々として其の兒の過失なからんことを希ひ、事の未發に防ぎ、時に些少の過失は庇護し、嚴父の威權を損せざる限りに於ては温和なる説諭戒告とを與へたるものにして、家庭教育の調和は遺憾なく行はれたり。

中流以上の家庭にありては親子の居室は分別し、父子鬪を境へて言葉を交ふる程にして、食事の如

きも親先づ箸を取りて、後子は一禮して食につくは日常の作法なり。

又外出せんとするや、先づ其旨を親に告げて許諾を受けて外出し、又所用ありて夜に入り歸宅するときは親父假令寢所にありと雖、其無事に歸宅せしを告ぐるを以て禮とせり。家憲の嚴重なるものに至りては外出中の行爲を一々親父の面前にて報告せしめ批評訓諭を受けしむ。凡そ夜中の外出は容易に許さざるものなり。

家庭に於ける懲罰は其の法固より一様ならずと雖も、禁足とて外出を許さざりしことは、普通に行はれたるもの、猶甚しきものに至りては座敷牢と稱し一室の中に永く蟄居せしむることあり、或は詰責の結果切腹せしむることあり、或は手づから斬殺することもありしなり。

男女の義理

武家に於ける男女の義理は、最も嚴重なるもの、婦女は常に家居して料理、裁縫の事を務め、主として家政を守り、子女の教養に任せしものにして、稍々身分高き家庭にありては、琴絃、舞踏等の遊藝を學びしなり、されば婦女の外出は稀に見る所にして況んや夜間の外出は最も嚴重なる制限を加へられたるものなり。婦女もし已むを得ざる用務の爲め夜中親族等訪問せんとするときは、前後に婢僕を伴ひ、定紋付の提灯を照らして其行路を嚴重なりしなり。

晝間の外出と雖も、身分高き武士の婦女は常に徒者を伴ふが、例にして決して單行は許されざりし

なり。若し婦女にして妄りに外出單身往來するが如きことあらんか、士列一般に擯笑、家庭の紊亂を誘われ、延いて家長の面目にも關することありしなり。

現今の如く男女交際の如きは昔日にありては、夢にも思ひ寄らざりしことなり、妻又は處女の身分を以て、一度不義不貞の所爲あらんか、忽ち一刀兩斷の處置に出でしものなり。又家長の妻女の不義不貞を假借することあらんか、武士間の制裁は忽ち其頭上に加へられ、所謂笠被りと稱し、終身士列の交際を絶たるに至れり。

武士の娛樂

武士は家祿に生計を保ち、専ら文武修業に従ふ、其娛樂は狩獵なり、少壯の武士は修業の餘暇に盛に山川を跋涉し、鷹狩、銃獵、乗馬、相撲、漁獵をなし、心身を健かにし、又は同僚相集り武術を談じ、狩獵を談じ、又は軍談を談じ、又は自ら眞顯記、太平記、源平盛衰記、三國誌、漢楚軍談を愛讀せり。圍碁、盆栽、茶湯の如きは専ら老武士の樂に過ぎず。

鳥取縣嶋根縣但馬、市町村名便覽

貳拾錢 送料 貳錢

飯田年平翁詠草拾遺

參拾五錢 送料 四錢

鳥取商業會議所編 改正税法早わかり

貳拾五錢 送料 貳錢

郷土研究第一篇因幡伯者に存するアイヌ語の地名

二百頁、近日出來、

一名歴史以前の因伯

發賣 鳥取市 横山書店

治水は治山濫伐を戒め

植林に意を注いだ

鳥取藩山奉行の話



治水はすなはち治山にほかならないとむかしの聖者はいつてゐるが、コノころのやうにむやみに山林を伐採すると、一朝出水に際會せようものなら忽ち河川の氾濫を見、家藏、屋敷の流出はおろか、尊き人命まで失つてしまふ、全國でも水害縣としてあまりありがたくない名稱をほし、にしてゐる鳥取縣の舊藩時代における山奉行のはなし、『鳥取舊藩』の官林取扱ひ方は土地によつて所轄を區劃してをり因幡國に十二ヶ所伯耆國に十三ヶ所の山奉行をわいて官林の栽培や採木、山林濫獲の事務をつかさどらせてゐたが、特に鳥取城山(現久松山)には山奉行二十六名をおきその上に城代役があつて城山を指揮保護してゐた、しかしその伐木の處分等については何等奉行の特權を許してゐない、従つて俗に役徳のやうなものもなかつたのである、民間から篤志をもつて土地とか樹木を官に納むる者に對しては『苗字帶刀』を許してゐた、また人民の所有する古林で適意その土地に應じ樹木を仕立てるものは林内に空地があれば木種を栽養して山奉行にコレを審檢懇説をしてゐた、尤も古法により植木したり新林等を禁じてその區域内を奉行が巡視し、柚所の材木は深山木のほか私有林木と混淆しないよう

に注意してゐた、なほ當時の『道路並木』の植付は官費をもつてしてをり家屋耕地風砂防禦の並木は民費をもつてしてゐる、木種は多く松木を植て間に雜木を交へてゐるが路傍一里間幾千本を並植する制定はない、官費をもつて栽培する並木、風折、立枯れまた蔭伐等の枝葉は山奉行郡奉行の令を受けて土人に投票をなさしめコレを賣却してゐる、その他官の用材となす場合とか疾風雷雨のため損失する並木を補植する際には官費を仰いで之に當てゝゐる『一里塚木』の如きもし失損あるときは直にその趣旨を郡奉行に届けると奉行は現場を點檢の上補植修繕することになつてゐる、しかしコレがため土木公費の修築もしくは官用材等は郡吏と山奉行が協議の上適宜に賦課徴收してゐたのである。(大朝)



鳥取縣下名木と大樹其由來

▲住吉之松 鳥取市川端四丁目にあり、安永年間鳥取藩主池田家の支封攝津守仲庸の姫君菅子、京都勸修寺大納言經逸卿に嫁するの時鳥取人高木仁左衛門供人として京都に上る安永六年御國母祝年なり

しかば後桃園天皇、子の日の遊を催し給ひし時經逸卿の拜領せる小松を乞ひて國元の屋敷に植へ本住吉より献せし松なればとて樹下に住吉大明神を勸請せり此時大納言の室より賜りし歌に

移し植わて蔭榮えつゝ住吉の松の千年も神や守らん

▲太閤手植の松 鳥取市西町、日本赤十字社鳥取支部病院構内にあり、天正九年羽柴秀吉鳥取城攻圍の時、秀吉の手植せしものなりと云ふ。

▲源太夫松 鳥取市源太夫山上の源太夫松は周圍一丈高さ十間餘三百年以上の老松。

▲長田神社の櫓 鳥取市上町元長田神社内の櫓は廻り一丈九尺五寸高さ十間。

▲前田神社の松 鳥取市田嶋村前田神社境内に周圍一丈五尺高さ十三間の松あり四百年以上といふ。

▲聖神社の槻 鳥取市行徳村聖神社境内の槻は周圍一丈五尺高さ八間にて四百年以上と稱せらる。

▲倉田神社の銀杏 岩美郡倉田村大字馬場村倉田神社境内に周圍三丈二尺、高さ二十二間の銀杏がある、六七百年を経たるもの傳説に依れば秀光入國の際、社殿、森林等兵燹に罹りしも右の銀杏は不思議にも災害を免れたので神木と今に崇められて居る。

▲北野神社の夫婦松 岩美郡美保村字富安村北野神社境内に廻り一丈五尺高さ十間の老松は三百五十年以上を過ぎ夫婦松と唱へられ居るも傳説詳かならず。

▲近藤方の榎 岩美郡志保美村大字南田村近藤龍觀方の裏手に周圍三丈六尺高さ四間の榎あり五百年

以上と稱せらる。

▲雨瀧神社の桂 岩美郡大茅村大字雨瀧村雨瀧瀑布の下雨瀧神社(廢社)境内に桂あり、周圍五丈高さ十七間約八九百年を経枝葉鬱蒼として雲を覆ひ閩人傳へて神木といふ。

▲崇健神社の松 岩美郡米里村大字古郡家村中臣崇健神社境内の松は一丈八尺高さ二十五間約七八百年神靈此老松に鎮座ありとて神殿を設けず建設せんとせば災厄あり、今に建設せずといふ。

▲辯財の松 岩美郡中郷村大字濱坂村字辯財に一丈八尺、一丈六尺、一丈五尺、一丈四尺の松四本あり、高さ八間餘何れも四百年以上。

▲濱阪の青木 岩美郡中郷村大字濱坂村字東籜の内周圍一丈三尺、高さ五間、三百年以上の青木あり。天正九年十月二十五日鳥取城落城の際佐々日本之助右の青木を墓標として植付け自及せしを以て後人墓標の青木と稱す。

▲摩尼寺の櫓 摩尼寺境内に周圍一丈五尺、高さ二十五間、三百年以上の櫓あり、天正年間秀吉伽藍を灰燼に歸せしめ、元和三年池田光政公摩尼寺再興の際帝釋尊天の脇士放光天子、此の櫓の梢に降臨し放光の櫓と稱せられて居る。

▲摩尼寺の松 同境内そんじ參せ坂に七尺七間、高さ六間の松あり、二百五十年以上尙ほ同境内に一丈四尺、高さ六間、四百年餘の松あり、北海に臨めるさま恰も猫の臥せしが如く航海船此松を目印に

爲し摩尼寺の猫松と云ふ。

▲櫻谷神社の姫松 岩美郡面影村字櫻谷村櫻谷神社境内の姫松は廻り二丈二尺、高さ十八間、四百年を經たる老松。

▲多聞杉 岩美郡面影村正蓮寺長保元年惠心僧都巡錫の際自ら其の杉樹の一部を探り、毘沙門吉祥天女膳職王子の像を刻み安置せしより三尊安置の記念章と稱す、廻り十八尺、樹高十八間

▲經塚 (二名二本松) 氣高郡湖山村字藤屋南土井にあり、周圍一丈五尺、樹高八間の松樹二本ありて普通經塚或は大松さんと唱へ、湖山長者の供養せし跡なりと傳へ參拜するものあり。

▲秀衡杉 氣高郡明治村字松上、松上神社境内にあり、周圍二丈二尺、高さ約三十二間の大杉にして秀衡參拜の時植栽せしものと傳ふ。

▲大銀杏 氣高郡大和村字赤子田、赤子田神社境内にあり、周圍二丈、高さ約二十間の大樹なるも由來不詳傳説別になし。

▲神木棕 氣高郡大和村横枕上土井にあり、周圍二丈四尺、高さ二十間の大樹にして里人呼んで神木と稱し近づくものなし、一千年以上にして横枕開始以前の太木なり、秋期該樹の落葉せんとする時麥蒔するを例とす、如何に寒氣連續する年と雖も、該樹にして葉の存在する時に播種すれば支障なく、若し小春日和打續くも該樹の落葉後播種せば成蹟不良なりと云ふ。

▲一里松 氣高郡湖山村に在り周圍一丈五尺、高さ八間。

▲朝日寺境内の松 氣高郡大和村字横枕村朝日寺境内の松は妙經松又日耀上人手植の松、又朝日寺紀念松といひ周圍一丈二尺、高さ二十間、元祿五年植へられし松と傳へらる。

▲治太夫松 氣高郡大和村大字猪子村字赤坂周圍七尺、高さ十五間。

▲行平松 氣高郡東郷村大字本高村字大谷村に在り、周圍六尺、高さ五間、五百年以上。

▲雲美須松 氣高郡東郷村大字本高村字風口に在り、周圍六尺、高さ四間、五百年を經たるもの。

▲米岡村の棕 八頭郡國中村大字米岡村中央に周圍二十尺の棕三本あり、往古大日靈女命米岡村方山頂に臨降ありしと傳へられ皇后石と唱ふる、石二座あり、他に石木なき平野にして之を靈石山と呼べり。

▲下野村の大樹 八頭郡大江村字下野村に俗にクモンの木と呼ぶ大樹あり、周圍約二丈、高さ十五間一千年以上と云ふ。

▲御門の銀杏 八頭郡大御門村字西御門二玉堂にあり、十二月晦日には瘡瘡神宿ると世俗に傳へ、其葉を守袋に入る者さへあり、其他傳説不詳。

▲天主の大杉 八頭郡若櫻町舊城址にあり、傳説不詳太木なるより名高し。

▲惠心僧都手植の銀杏 東伯郡西志村字櫻村舊上院に在り、周圍三十六尺餘、高さ五十五尺、九百二

十二年の老樹なり、同院は永延二年惠心僧都の開基にして櫻山大日寺の大伽藍と四十九坊建設せらる、然るに中古兵亂の爲め焼失せり、現今大日寺の本尊たる大日如來は僧都の作なりといふ。

▲寺谷の一本松 東伯郡灘手村大字寺谷字石坂平にあり、周圍二丈、高さ七丈八尺の大樹なり、由來不詳別に傳説なし。

▲北面の大松 東伯郡灘手村西畑周圍二丈六尺、高七丈あり、由來不詳傳説なし。

▲山伏松 東伯郡赤碓町大字赤碓字八幡坂、周圍一丈七尺、高十四間の大木なり由來不詳傳説なし。

▲サンダラ松 東伯郡竹田村大字穴鴨字桂谷、樹高一丈五尺、面積百坪以上あり、由來不詳傳説別になし。

▲天皇杉 東伯郡以西村大字山川字船上山、後醍醐天皇御手植と傳ふ。

▲天竺桂 東伯郡矢送村大字關金、地藏院境内、周圍一丈六尺、高七丈餘、樹幹直立地上十四尺の上部に腫物の如き大瘤を生じ數十尺の上部に枝葉繁茂し宛然傘を擴げたるが如く天然稀有の珍木なり。

▲的場松 西伯郡名和村大字加茂、名和長年の弓術的場屋敷跡に植込みたる松にして數百年を経たる老松現存す因に根元廻り一丈九尺なり。

▲連理の松 米子市勝田町、三百年以上を経たる老松二株地を距る十餘尺、兩幹互に連理を爲す一は高さ十九間、根の周圍九間上り二間、幹の廻り三間、一は高さ十三間、根の上り一間、幹の廻り一間

其狀頗る奇なり、大日本名本誌には日本一の稱あり。大正六年七月米子町は名木として保護方法を設く。

▲大松 西伯郡大篠津村諏訪神社境内周圍二丈高さ二十間の大木にして地方の名木として保存せり。

▲船繫松 西伯郡成實村字奈良村周圍二丈五寸、高さ十間以上、枝葉林の如く枝を垂る、事十間内外百五十坪に涉り一千年以上と稱せらる。

▲五本松 西伯郡御來屋に慶應年間落雷の爲め一本枯損尙明治三十四年一本枯損し現在は三本となれるが周圍何れも一丈六尺以上にて五百年以上を経過せる老松。

▲天神松 西伯郡五千石村安養寺境内に在り、周圍三丈、高さ十五間、五百年以上。

▲大松 西伯郡高麗村北野神社境内の大松は周圍三丈三尺、高さ十間、一千年以上、尙ほ同社境内に轟々松あり、周圍一丈五尺、高さ十八間、六百年餘。

▲船通の榎 日野郡多里村字上萩山村船通山の山腹にあり、廻り一丈五尺、高さ一丈、最も長き枝は十六間、一千年を経たるもの。

▲上石見村の榎 日野郡石見村字上石見村後藤光藏方邸内の榎は廻り六尺、高さ六間約八百年を経たるもの。

▲上の段神社の藤蔓 西伯郡江尾村上の段神社境内の藤は幹七尺、高さ六間、樹齡五百年といふ。

- ▲七色櫛 日野郡神奈川村大字武庫、葉色、四月は紫色、五月は黄色、六月は白色、七月は赤色、八月は緑色、九月下旬より翌年三月までは青黒色と順次變化するを以て此の名あり、廻り四尺五寸、高さ五間。
- ▲傘松 日野郡江尾村大字江尾、東禪寺境内、形傘に似たり、周圍二丈餘、高三丈餘、由來不詳、傳説別に無し。
- ▲双龍松 日野郡山上村大字藤屋、矢原神社境内、周圍二丈の大木なるを以て名あり、由來不詳、傳説別に無し。
- ▲下菅の大杉 日野郡黒坂村大字下菅、下菅神社境内、廻り二丈、高十五間の大木なるを以て名あり、由來不詳、傳説別に無し。

裏日本の美人系から漏れたか



神代の八上姫以來絶えて美人の出ぬ鳥取地方

青柳氏の面白い觀察

因州因幡の『三人娘』によつて知られてゐる鳥取の女はこの俗謡のためいかにも淫奔の女のやうに大分語解されてゐるが事實はなか／＼もつて淫奔どころか貞操觀念が強い、おなじ鳥取縣のうちでも伯

者の女はどちらかといへば因幡の女に比し貞操觀念が薄弱であるやうた、コレは舊藩當時因幡藩が盛んに武道を奮勵したことが知らず知らず女性の間に強い貞操觀念を涵養したものだと思はる、一體女性の貞操觀念の強弱はその環境によつて左右されるものが多く、花柳界や下町に育つた娘は良家の子女よりも早熟性を帯びてゐるはいふまでもないことだ、サテ鳥取縣は美人系に恵まれてゐるかどうか、試みに鳥取や米子の街を歩いてみても目の覺めるやうな美人に滅多に出遇はさぬ、ソレに土地の娘が生れ故郷で左褌をどる者は至つてすくなく鳥取でも、米子でも、倉吉でも、大阪、名古屋、東京（いはゆる震災藝妓といふもの）神戸邊から大部分は輸送されてゐる、従つて純粹の鳥取ツ妓を花柳界に求めても容易に見つからない、ソレにしても神代の昔絶世の美人？八上姫を生んだ因幡の國にその後美人が出ないのは何ゆゑであらう？美人系の元祖出雲國からわざ／＼大國主命が重いふくろを肩にはる／＼因幡國（八頭郡八上村）に八上姫を戀慕うて來たローマンスは古事記に記されてゐるが當時八上姫に戀してゐたものは大國主命ばかりでなく命の兄上達も同様ではげしい戀の闘争が演ぜられたのであつたがしかし戀はやさしきもの、手に落つることは神代の昔も今も變りなく遂に命は戀の勝利者となつたのである、閑話休題、我鳥取縣が裏日本の美人系にそれてゐる點につき女性讚美論者の青柳有美氏は曾てこんな觀察を下してゐるから面白い。

出雲國から起つて陸奥國の日本海沿岸部なる津輕における美人系は裏日本、美人系と稱せらるる

が同じ裏日本であつても伯耆、因幡、但馬、若狭などの諸國からは古來天下に謠はる、美人を出したことがなく現在においても美人を出さぬのである、これは神代においても出雲族が裏日本植民を企つるに當つて船舶を利用したため、突角から突角へとこれを目標にして航海したのによるもので出雲族はまづ出雲國地藏崎の邊を發して丹後國經ヶ崎に至り、それから若狭灣を横斷し越前國越前岬の邊に上陸しそれから後は主として陸路により越後、羽前、羽後、陸奥と進んで行つたらしく、ために突角と突角との間に引つ込んでゐた、伯耆、因幡、但馬、若狭の諸國は出雲族の植民圈内から取除かれ、隨つて同方面では出雲族とアイヌ族との間に雜婚を見る能はず、同じ裏日本でも美人を産する能はざることになつてしまつたものと思はる……

なるほどサウいへば日本美人の代表者として史上にその名を垂る、小野小町は羽後國の産である、靜御前と佛御前も加賀國から出た白拍子である、歌舞伎の祖お國は出雲の人である、現今でも秋田、越後はいはゆる『秋田美人』『越後の女』として日本美人のお株をもつてゐる、果して我鳥取縣が裏日本美人系から除外されてゐるとすれば神代の昔八上姫を出したこととちよつとロジックには合はぬ、合はぬといつて理窟で、美人は生れるものでないから早々その詮議立てをするにも及ぶまい。(大朝)

古今 因伯書畫百藝名人集

洋傳附

代貳拾錢
送料貳錢發

發行元 鳥取市大工町筋

横山書店



因州因幡の民謠

『君の國は何處ですか』と問はれて

『鳥取です』と答へると

『ハハア、あの因州因幡の、と云ふ唄の鳥取ですか』とよく聞かれたものだ。

『因州因幡の鳥取で、鹿野街道のまん中で娘が三人出逢ひして、先きなる娘は十八で、中なる娘は十七で、後なる娘は十六で、後なる娘の云ふことにや初めて〇〇と……と云ふ唄は最も卑猥のもの代表者の如く考へられて居た時代があるらしい。地方の民謠の中にはもつとアケスゲな裝飾のない俗謠も少くないのであるがそれ等は『因州因幡』程世間的ではなかつた。

この『因州因幡』は現在では鳥取に於て全く廢滅して仕舞つて居る。田吾作も奎平もエツサツサと安來節を唸りながら首を虎の子のように振つて居る。思想健全にして青年を鼓舞する新作が續々と生れて鱈すくひと稱せられる金儲を象徴した踊りが鳥取のみならず天下を風靡した。花のお江戸ですら淺草の梅坊主や球乗りが一湛りもなくエツサツサの赤い禪に蹴散らされて仕舞つたことである。

物珍らしい他國人が鳥取に來て藝者に『因州因幡を……』と注文しても『そんな唄は知りまへん』と突離

されて仕舞ふだろう事程左様にこの唄は跡が絶え、また亡國の唄として鳥取の人達から嫌はれて仕舞つた。鳥取の人は『因州因幡』をもつて鳥取の象徴とされることを先祖代々の誓よりもつと強く憎んで居る。

この憎まれた唄は一体たれの所産だろう。どうしてそんなに片輪に生れ付いたのであろう。

因幡藩が三十五萬石を擁して山陰の中央に睥睨して居ることは徳川政府にとつて並々ならぬ苦痛の種癢の種である。なんとかして機會さへあれば取り潰し、若くは國換ね、滅地を命じて枕を高ふせねばならぬ。三十五萬石の實收は勿論ない事は徳川政府はよく知つては居るが一文でも余裕をもたせない爲めにはあらゆる手段を講じて代る／＼大土木工事を因幡藩に命じた。ために因幡藩士は百石取りの人が實際は二十石貫へなかつた。これ程の貧捧をさせて置いても幕府はまだそのまゝには濟ますことは出来なかつた。

ある時、些細な手落ちからそれを口實に幕府は因州藩を國換へさせることに決定する模様が見へた。因州藩の江戸に於ける外務大臣——お留守居役と稱せらる——は機敏にこれを探知した。素破こそ一藩の危機とばかり息を呑んだ。百方手を盡くし親藩たる紀州、親類附合の薩藩をも頼みこんで手に手を盡したが結果は益々面白くないばかりである。

大死一番、身を捨て、浮ぶ瀬を作らねばならぬ。頃は天明の央、江戸の華かな街から、颯風のように

な凄まじい勢で新らしい唄が産れた、淫蕩と歡樂とにたゞれ切つたような踊りがその唄に合せて踊られた。これが『因州因幡』であつた、無氣力な仕事をする能力のない狂人が花を見て笑つて居るような唄であつた。因州因幡は淫蕩に荒んだ哀れな街である。幕府の力をもつてせずとも、因州藩それ自身が自滅するに違ひない、幕府が強いて鳥取藩を表面から取潰すことは策の得たるものでないと幕府の有司は考へた。そして嘲笑しながらも何處となく自分の心をそゝる『因州因幡』の享樂氣分に浸らすには居れなかつた。極端に卑猥な舞踊は有司たちの呑まうとして居る盃の酒を、更に楽しいものとした。

一藩を代表するお留守居役は一面に於てだれもかれも最大級の遊蕩兒であつた。

こうして因州藩は漸く事無きを得たのだと傳へられて居る。

他に『因州因幡』の起因に一説がある。

因幡藩が交通不便な爲めに豊穰な米穀を運輸しこれを金に代へることが困難であつて大阪の藏前商人に交渉しても誰一人として引受けてくれるものが無かつたとき、大阪に居た鳥取藩のお留守居役が『因州因幡』を馴妓に作らしめて盛んに浪花で流布したので、米穀の大商人どもが、鳥取を非常に繁華で賑かな城下であることを知つて盛んに米穀の取引を開始し出した、といふのである。

いづれかは知らないが亡んで仕舞つた『因州因幡』に私は郷土玩具に對するような愛好心を持たずには居れない。(吉村撫骨氏)



同名の村

八二

鳥取縣下にはおなじ名前の村が六ヶ村と類似の村が三ヶ村あるので随分や、こしい、往々飛んだ間違が起る、日野郡と東伯郡に旭村、西伯郡と氣高郡に大和村、八頭郡と西伯郡に賀茂村、東伯郡と八頭郡に社村、氣高郡と東伯郡に東郷村、八頭郡と東伯郡に西郷村があり、東伯郡に大誠村、氣高郡に大正村があり、岩美郡に美保村、氣高郡に美穂村があり、東伯郡に成美村、西伯郡に成實村がある。

◆
今度の郡廢を機としコレ等村名改正の議が一部の間に起つてゐるが傳統的に呼びならされた名前に何となく愛着の情が残り肝心の村當局が無關心である以上今のところ改名は覺束ないであらう、郡役所廢止後には一層やゝこしくなる、尤も郡そのものは依然存在して行政區域を劃してゐるから他郡におなじ名前の村があつても差支ないといつてしまへばそれまでのはなしであるが………

◆
郡廢後官廳の事務は層一層繁忙を加へ令達文書の示達でも『鳥取縣何々郡何々村と書くよりも鳥

取縣何々村』と書く方が手数が省ける、コハ獨り官廳ばかりでなく日常の通信上に誤達等がなくなりまた受くる方の迷惑もなくなる、村當局の一考すべき問題だ。(大朝)



鐵道沿線より見たる風俗と人情

- 岩美驛附近、鐵道開通以來風俗大いに改良せられ人情も亦懇切の美風を存す。
- 鹽見驛附近、山間村落なるに依り質素温和也。
- 鳥取驛、市は因伯二州を管治する政治、經濟上の中心地にして山陰道の大都會なるに依り一般都會的氣風を有し、商業又活潑なり。治水後工業地帯となるべし。
- 湖山驛、地方は多く漁業に従事し、風俗質素人情純朴なり。
- 寶木驛、山間の一村落到して質朴温良なり。
- 濱村驛、漁村を主とする温泉場なるを以て一般に人心温厚にして外來旅客に對し懇切に風俗も亦華美に流れず、各自其職に勉勵せり。

八三

- 青谷驛、地方は農業本位とするに依り温良質朴なり。
- 泊驛、地方は農と漁を専らとするを以て一般に質朴なり。
- 松崎驛、温泉地なるを以て接客に慣れ稍華美に流る、傾向あるも人情は懇切なり。
- 上井驛、風俗清淳人情訥朴なり。
- 倉吉驛、近時交通機關の發達に伴ひ商工業共に發展し、一般に活氣を呈し山陰の『マンチエスター』の稱を得るに至れり。
- 下北條驛、果樹類生産夥しく農民富裕なり
- 由良驛、農を本業とするに質朴温良なり。
- 八橋驛、質朴にして温健なり。
- 赤崎驛、風俗普通にして人情淳厚なり。
- 下市驛、眞摯にして實直なり。
- 御來屋驛、質實にして温順なり。
- 淀江驛、米子街邊の一小都邑なるを以て人智啓發せられ、概して人文發達せり。
- 伯耆大山驛、質實にして素朴なり。
- 米子驛、伯州第一の都會地にして、經濟的發達著しきを以て一般に商機を見るに敏にして活動の情

を呈す。

- 後藤驛、米子と大差なし。
- 弓ヶ濱驛、此邊繭産出多く經濟向良好なり。
- 大篠津驛、人情美しく風俗質實なり。
- 境驛、境地方は商港として發達せるを以て、概して人文發達良好なり。(鐵道沿線發達史による)



訴訟は因幡より伯耆に多い

同じ縣下でも伯耆は因幡より訴訟事件が頗る多い、亦刑事事件も殺人強盜等東西兩伯郡は近年頻々たるに拘らず、因幡には極めて少ない、殊に東伯には時に奇抜な事件起り、西伯にはジゴマが飛出した、又民事も伯耆は非常に多く殊に倉吉方面の訴訟と來たらお話しにならず、微細な問題まで捕へて告訴狀を提出し、警察に非常な時間潰しをさせる連中が少なくない、爲に時には滑稽なる事件がある、之れに反し因幡には訴訟が少ない、それで民事の問題が實際少ないかといへば隠れた問題が多々多い、然るに之を伯耆の如く法廷に持出さぬのは裁判所にまで持出さんでもお互ひの間で解決しやうといふ風のある爲めだ、然るに法廷に持出さねばならぬこと迄内輪で騒いでおる、伯耆の如く一も二

もなく訴訟するのは素より好ましからざることであるが自己の権利を主張することを知らぬのも餘り褒められたことでない。

因幡伯耆人氣風の相違

一は因循一は進取的

風俗上より見た縣下の狀況は西部地方と東部地方は自から人情風俗を異にし居るが伯耆地方概して快活にして世才に長じ進取的氣象に富めるも淫風盛にして且動もすれば殺伐の風あり因幡地方は因循にして進取的氣象に乏しく質實を尊み保守的傾向あり之を統計の上より見るも海外渡航者は殆ど西部地方に限り又犯罪に於ても殺人傷害の如き殺伐なる犯行は主として西部地方に發生し墮胎は東部即ち因幡地方に多く私娼は地理的特殊の關係より同一に論すべきにあらざるも西部に屬する境町倉吉町は私娼跋扈し風俗警察上注目し居る又警察官吏に對する民衆の態度に至りては西部地方は警察官吏に對して概して萬事好意的態度に出で寧ろ進んで接近了解を求めんとするの風あり従つて一面弊害の伴ふ事あるも東部地方はこれに反して努めて敬遠主義的態度を持する傾向ありこれを以て本縣ではこれが融和を圖る等地方の民風に適した方法に就て相當顧慮を要すと。



鳥取縣のみやげ物

兩國だけに雨傘は發達して居る

ローカルカラーの現れもある

◆鳥取縣にては農商務省商務局よりの照會に依つて縣下に於る特産物たる土產品の調査を行ひつゝ、あつたが此程漸く終了した、それに依ると小縣の割合に比較的其名を知られて居るものがあり、又一面本縣のローカルカラーを現はして居るものがある。

◆先づ其一は所謂因幡紙の名に依て東京を始め京阪、九州、朝鮮地方にまで其聲價を揚げて居る和紙で品質優美、紙質強韌を以て賞揚されて居るが、遠く寛政年間に於て既に家庭手工業として製造されて居り爾來製品の改善と産額の増加を圖りつゝ、今日に及んで居るが其年産額は二百萬圓に達して居る。

◆之れに次ぐは雨傘で『蛇の目傘』と『淀江傘』の二種類あるが何れも堅牢なると實用的なのが特色で前者の年産額が十四萬圓後者が五萬圓であるが、此雨傘の斯く發達せるは本縣が他地方に比し、雨量多く俗に小便國とまで云はれて居る關係から自然需用の多きに依るものであらうが、舊藩時代に於ても士族の内職として盛んに製作されたものであると云ふ、又淀江傘の方は昨年産業組合を組織されて其

産額の増加と品質の改善とが企劃されて居る販路移出先は京阪が主である。

◆陶器類では八頭郡が産地で『八上焼』と『因久焼』が擧げられて居るが紙や雨傘に比して餘り振つて居ない、即ち八上焼の年産額は八千圓、因久焼は僅か七百圓で在る、尤ひ因久焼は一名久能寺焼とも云つて主として茶器を製作して居るが、明和年間鳥取藩の命に依り國産品として製造されたことのある古い歴史もあつて往古茶人の間には賞玩されたものださうで今でも『古因久』と稱するものは、一箇數百圓に値するものがある。

◆漆器類も亦振はぬこと夥しく只鳥取市に於て久松塗なるものが只一つあるのみであるが、特殊の趣向もなく地方色の現れもない、年産額は二萬二千圓で維新前は舊藩主用として製作されて居たが引續いて今日に至つたのである。

農商務省から名稱の白珊瑚

舊藩時代から賞美のびんつけ油

◆細工物では古來から其名を知られて居る『白珊瑚』と『海松』があつてコハ縣下沿岸に産する海底植物の幹枝から製作されるが所謂白珊瑚箸を主とし妻楊子、洋杖、パイプ、風鎖、文鎖、床飾、置物等である、此白珊瑚箸は舊藩時代には『毒消し箸』と稱されて當時京阪地方へ赴く旅人は『鳥取土産』の一つとして必ず携行されたものである。

◆第一回内國勸業博覽會の際に此白珊瑚を海柳の名稱を附して出品した所農商務省では海柳では呼名稱が面白くないと云ふので附するに白珊瑚の名を以てしたとかで、それ以來俗に白珊瑚と一般によばれるやうになつたものであると年産額は六萬五千圓で大部分は鳥取市に於て捌かれ、外來者の足一度鳥取に入れられると、所謂鳥取みやげとして購はれるものは、即ち此白珊瑚細工である。

◆次では木通蔓細工で最近著るしく斯種の細工物は發達して來たが未だ〱改良の餘地がないでもない、原料は縣下の山野に到る所産出する木通蔓で年産額二萬圓である、又鑛石細工は只一つ香盒石が擧げられて居るのみで甚だ微々たるもの年産額は漸く千圓で産地は岩美郡宇倍野村である。

◆縣下沿岸の特産たる『松葉蟹』も土産品として好適のもので、其大さ一尺乃至二尺に及ぶものがあり、味は最も美味である、最近罐詰として市場に取出されるやうになつたが、一箇年の漁獲高は八萬六千圓に達して居る、又湖山池より漁獲される糠蝦は佃煮として副食物に好適のものであり、列車の發着毎鳥取驛構内で賣子の『湖山煮々々々』と聲高く賣歩くは即ちコレで年産額一萬二千圓販路移出先は京阪及朝鮮蒲州方面である。

◆西伯郡の特産たる干瓢と玉簾餛飩も可なり其名を知られて居り、遠く花のお江戸までも移出されて居るのを見ても土産品たるの價値を失はない、前者の年産額は五萬五千圓後者は一千五百萬圓である。

◆其他因幡『びんつけ』として有名な鬢付油は木臘の晒したものに植物油を混じ香料を配合したもので

舊藩當時は男女の髪結用として賞美され、其製法には獨特の技能が用ひられて居るさうである、販路は縣内は素より中國近縣、京阪、名古屋、東京、九州、北海道の多方面に及んで居り、年産額は三萬五千圓に及んで居る。

◆尙ほ昔其聲價を博せる倉吉名産『倉吉緋』は今こそ久留米、薩摩等の緋に壓倒されて微々たるものであるが特色としては洗へば洗ふ程其縞目が明瞭となるのであるが、多少非美術的なのが缺點である、年産額は約一萬圓である。(大朝)

最も人口に膾炙せる國史最高權威書出づ

鳥取市 横山書店

松岡布政著

伯耆民談記

正價壹圓

上下合本

送料六錢

伯耆に産出せる文献上の一大勞作を總集せしものなり。著者晩年史學を好み、暇あれば筆硯を携へ單身獨歩因伯の山野を跋歩し、到る

所古蹟を探究し、社寺舊家を訪ひ、民間口碑傳説を集む。後積つて十五冊を成す、名づけて伯耆民談記と云ふ實に寛保二年其内容の豊富、脈絡一貫せる體系に編纂せるものにて詳細丁寧因伯史料を理解せんとする人々にはこの寶典を永久に保存せられんことを切に江湖の愛讀を望む。

鳥取の書肆今昔物語

本屋の看板行燈——江戸京都浪華の木版物——定價附の十分の一——

雜誌黨——國華が大枚壹圓——五十年間の書肆變遷



無論餘り古い事は知つて居ぬが私が十歳頃からの記憶を辿つて見やう。

本屋といへば大工町筋則ち帳面表の上魚町に横山龍淵堂と山本文林堂との二軒あるだけで鳥取を百度廻つても此外に本屋らしい家は無かつた。

店の軒先に、今でも見る大坂の住吉さんの燈明臺に似た型の、四、五尺高の看板行燈を地べたに置てあつたものだ。

其頃はまだ西洋本の一冊も無き事とて四書に五經に、『太閤記』、『源氏物語』に『いろは字引』、『廣集字典』などが幅をきかしたもので、他は江戸、京都、浪華の各書店上梓といつたやうな木版物ばかりで、石摺の和手本とか『梅曆』だの『廓文庫』など雑多の黄表紙青表紙等が一般向で、他は小學校の教科書と所謂大坂出來の繪本や、江戸到來の錦繪類で客を呼ぶのであつた。

活字本といへば大阪出版で馬糞紙に金ピカ刷を貼つた厚表紙で『岩見武勇傳』だの『釋迦如來一代記』だのといった風のもので、私なども一冊なりと手にして、ハイカラがりたかつたが、何しろこつそり

代價附の所をメクツて見るに、代價二圓とか三圓とか九で木判手摺何十冊一部の代金を洋綴一冊に持せてあつた。成程内容が同じだから左様かも知れぬと遠慮して指を喰へたまゝ、赤い顔して手を引こめた事は度々であつた、併しそれでも思ひきりの悪るいもので諦めがつかぬから出鳥の序毎に店先に佇て居ると、鳥取の旦那諸君が自慢さうに買つて行く。二圓の定價附の岩見武勇傳でも十五錢で買つて行く、ハ、アと合點して店員に聞くと大低定價附の十分一位であつた。

明治二十四五年頃には餘程ハイカラの店となり、賣品の半數以上は活字物と變り、廿七年の博文館が始めて『大家論集』といふ雑誌を發行してから漸次雑誌を店頭に見るやうになつたが、未だ其頃は、大低の雑誌は讀者が直接に東京の發行所に申込なのであつた。

博聞雜誌などは雑誌界の王ともいはれて學者の讀むものとしてあつた、文學雜誌では春陽堂かの『都の花』が獨歩時代で五人も十人もハイカラ黨が借り合て愛讀したのであつた。

私などは三十年頃から大の雑誌黨となつて日本中の雑誌は全部購讀するといふ氣焔で、藤谷旭日堂の第一得意として毎月十、八圓を支拂て居たが、雑誌の種類は四十種内外であつた、最も其頃は米一俵が二圓内外の時代だから雑誌も二十錢以上は無かつた。

美術雜誌で『國華』といふのが月一回發行で、一部が驚く勿れ大枚一圓であつた、今の十圓にも當るのである、購讀者は私と他に鳥取に一人ありて、二部づゝ旭日堂が通運で取扱つた事もあつた。寸法

が大きいため第三種郵便では取扱はなかつたのである。

それが現今では大工や左官の娘でも五十錢、一圓の主婦の友や講談俱樂部の類を四、五種も讀むのだから、本屋も儲かるであらうが、家庭の財布もたまつたものではあるまい。

今月迄約五十年間に、書店の何屋が明治何年に開店して、何年に閉店したと確に記憶はして居らぬが、先づ一般に知られた書店で五十年間に開店して閉店したのは、山本文林堂の昔からのを除いて、藤谷旭日堂、日本屋書店、久松堂、平木久松堂、山本靜觀堂、太田書店、前島松榮堂、濱田光文堂を重なるものとして其他小さい書店の潰れたのは數多ある。

現存ので山本尙文館は國定教科書が出来て以來で格子構であつたのが、四十年頃に今の本町尾崎醫院の家で大きく開店し、大正三年に今の郵便局前に新築移轉したのである、市役所前の島田書店は横山書店の番頭が出て開いたのだが、外に花原文武堂に内吉方の岡田光文堂、小林書店で、女學校前の靜觀堂は竹田松藏君が利を見るに敏き眼で學校町の目貫を見立て、開店したほどあつて今では三、四代目となつて居るが顧客は町の寂れを裏切つて居る。と云つた譯で、維新前よりの書店は横山一軒のみである、現代の龍藏君で十二代目だから随分古い。舊藩時代の御用達をつとめ明治九年より二十年頃迄は因伯但美四ヶ國の小學校教科書翻刻權と木版を以て各種大冊の出版をしたのであつた、私が知つて以來安次郎、敬次郎今の敬次郎と三代の今日となつた、同店は販賣以外に興味を以て各方面に

渡り古珍文書の蒐集夥しく帝大等よりも地方史料取調に際し臨庫参考としつゝある。(山陰)

俳大家 岡田機外氏



因幡の奇習

因幡は素稻葉と書いて居たが、何時の頃よりか因幡と改めた、夫の在原行平の歌に立別れ稻葉の山の云々と云ふのも矢張り稻葉と書いて有る、之れで見ても中世紀頃までは稻葉と書いて居た事が解る、さて此の國は神代に大國主尊が經營せられたもので、其妃八上媛の生地は今に残つて居る、イヤ古い事の詮索は面倒だ、短刀直入、因幡の風俗を紹介しやう。

△鴨の出代り▽

別府の温泉では鴨押しとか云ふ珍妙な習慣があるさうだ、併し因幡の所謂鴨とはさう云ふ意味のものではない、唯單に女中の異名に過ぎないのである、尤も一般の女中を云ふ譯ではないが、多くは此

の鴨連である、抑々此の異名は如何なる所から起つたかと云ふに、彼等の一行は相携へて冬の初に來たり而して翌年春の終りに歸つて行く、夫れが恰度鴨の來り又去るに似て居るからである、で、彼等は一體何處から來るか云ふに、夫れは直ぐ東に隣りして居る但馬國から來るのである。元來但馬は交通の不便な産業の振はない國であると云へば、生野の銀山が有る、但馬牛の産地であると云ふかも知らぬが、此等は何れも少數であつて到底但馬の生民を養ふことは出來ぬ、其處で冬の仕事のない時を利用して出稼をするのである、併し之れは宜い習慣で、相當な財産を有する家の娘でも奉公して他人の飯を食つたものでなければ嫁に貰はない、だから毎年皆が誘ひ合はして稼ぎに出るのである、それが毎年出る日も歸る日も定まつて居て其の日になると、皆が同じやうな扮装で、白い風呂敷に一寸した物を包むで脊負つて出て來る、夫れを途中で見て居ると随分賑かなもので、之れが毎年因幡から尠からの金を持つて行くのかと思ふと心細いやうな氣がする、此の來たり歸つたりすることを鴨の出代りと云ふのである。

△五月節句の菖蒲繩▽

五月五日の夜に菖蒲繩と云ふものを引く、俗に之れを『あんかけ』と云つて居る。今は段々廢れて行つて昔程盛んではないが其の面影だけは残つて居る、菖蒲繩と云つても強ち菖蒲ばかりで作る譯ではなく、重に蔓の大きいので作る、頭の大きさは大人の一抱位も有つて長さは二、三町もある、で、之

れを引くには先づ村を東西の二組に別ける、而して此の太い頭と頭とを繋ぎ合はせて掛聲諸共に引合ふのであるが、此の繋ぎ合はせるまでが却々大變で、之ればかりに約三、四時間もかゝるのである、愈々繋ぎ合はせるのは大抵十二時一時頃である、尤も早く繋いで仕舞つては面白味が無いので殊更に長くかゝるのであつて、夫れまでは双方境界線まで出張つて『よう來んかい、あんかけよい』と聲を合はせて勝負を挑んで居る、偕て愈々繋ぎ合はせるに『ソラ』と云ふ聲諸共に、年寄も小供も女も有つたものでない、皆寄つて来て引き合ふのである、人數や繩の如何は無論制限が無いのだから、結局人數が多くて繩の丈夫な方が勝つ譯だ、で、何方か一方が負けて敵の方に引かれて行くと、もう叶はぬと斷念めて繩の途中から切つて了まふ、之れで頭の方は取られても尻尾の方は残るから丸取りにされるやうな事はない、又時に依ると勝負の決しない中に何方か切れて了まふ事もある、之れは唯節句の樂みに過ぎないので、勝つたから奈何、負けたから奈何と云ふ制裁が有る譯ではないから随つて弊害も尠ない、此等は地方の習慣としては可い方であらう、殊に其の男性的なのは因幡之守大に賛成である。

△亂暴な代滿祝ひ▽

之れは農家の祝ひで、五月の田植を了まつた時の祝ひである、年に依て早い事もあれば、遅い事もある、先づ此の祝ひ日は誰れが定めるかと云ふに、村役場で大抵田植が済むやうな頃を見計らつて、

來る何日に代滿をすると布れ出すのである、其の日は村民一同業を休んで酒や肴で祝をするのであるが、之れに又妙な習慣が有つて、知らずに他所から來た人杯は随分飛んだ災難に遭はされる事がある、と云ふのは此の日には女が竹で作つた水鐵砲のやうなものを以て、男と見たら誰彼の容赦なく水を吹きかけるのである、之れが所の人だけに限られ居れば可いが、何んにも知らぬ旅の人にまで吹きかけるのだから、掛けられた人は怒るまい事か、青筋立て、怒るけど所の習慣だから如何んともする事が出來ぬ、で、あるから男は成る可く此の日には外出しないやうにするが、中には又面白がつて出掛けるものもある、斯う云ふ風で代滿の日には男は女から非常の迫害を受けるのであるが、其代り第二の代滿(第一の代滿から七日目)には男は女に向つて大々の復讐を遣るのである、これは田から取つて來た計りの泥苗を、女と見たら容赦なく投げ付けるので、之れは水を掛けられたより一層ひどい、であるから此の日には女は決して外出しないのである、之れが代滿の祝で田舎の若者の樂みの一つである。

△男女混交の盆踊り▽

盆踊は季節柄公衆衛生に害が有るので禁じられたけれども、相變らず盛に行つて居る、之は寺の境内又は富豪の家の庭を借りて年若い男女が寄り集まつて踊るのだ、其踊りにも種々あるが、一番面白いのは『さんこ』と云つて踊り子一同の圓形を作り、中央に白を置いて其上で太鼓を叩き歌を謡つて拍

子を取る、これに連れて一同は手を挙げ足を摺つて踊るのだ、踊り子の扮装は別に取り立て、云ふ程の事はないが、田舎娘が白粉をこて塗りにして、白い浴衣の袖口から太い手を出して、上げたり下げたりする様は一目見た計りで澤山だ、而して踊りの時間は大抵八時頃から拂曉頃までである、其間には腹が空くから夜食を食べねばならぬ、暑いから西瓜でも食はねばならぬ、中には又〇〇手を取つて何處にか姿を隠してしまふのもある、斯う云ふ風で休んでは踊り、踊つては休むのであるから、踊り子は代つても踊りは絶えず繼續して行くのである、又踊り日は各村村で決つて居て、例へば甲の村は十三日、乙は十四日、丙は十五日、丁は十六日と云ふやうに重複しないやうに順序よく出来て居るから甲の踊り日には乙丙丁等の村からも踊りに行く、すると甲の村では此等の村の踊り日には是非行かねば義理が立たぬと云ふので出懸けるのだ、事柄の如何は姑く措いて其義に固いのは、實に美風と云はねばならぬ。

△八日吹の迷信▽

之れは陰曆十二月八日である、俗に此の日を八日吹と稱して、昔から天候の荒れる日として有るが、妙に亦荒れるのである、而して此の日には必らず豆腐を食ふことに定めてある、夫れは八日吹きに豆腐を食へば一年中についた嘘が悉く消えると皆食ふ事になつて居る。(文俱因幡守)



傘踊り

◆世が變つて農村娯樂の盆踊りにさね田園藝術といふ鹿爪らしい名稱がつけられるやうになつた、田舎の野天芝居でさへ臆面もなく藝術呼ばはりをする當節だから何の不思議もないけれど悲しいことにはこの農村唯一の田園藝術も次第に下り坂になつて昔のやうな『踊る氣違ひ見る阿呆、去んで寝るやつ病もち』といったやなホンどの踊り情調は味はへなくなり、ただ去勢された形骸だけが傳統的に残されて昔のそれとは似ても似つかぬゴム人形に活を入れたやうないわゆる新興踊りが辛じて餘喘を保つてゐるがしかしこれとて踊り保存會でも興さねば今に消滅しそふ有り様だ。

◆豊年だといへば萬作踊り、水がないといへば雨乞ひ踊りと一にも踊り、二にも踊りで『同じ阿呆なら踊らにや損ぢや』とさしも全盛を極めた踊りがかく見る影もない衰退を來した理由は時の流れによること勿論だが、今一つの大なる原因は盆踊りを一種の興行と見なして鑑札制度にした上踊りの生命である人情をそのまゝ出した歌詞や囃子にまでやれ風紀上面白くないのと次ぎ／＼に干渉するのでつひに今のやうな衰微を招來したのであるが、文化に縁遠く何一つとして娯樂を惠まれない農村から、

かうして踊りを取り上げるのは、ソレや聞かせぬ………

◆鳥取地方の盆踊りには手踊りのほかに傘踊りがあるが農村では陰曆十三日から十五日まで僅か三日間の盆を樂しむために、植付がすむやすまずに毎夜々々五體の關節がフラ／＼になるまで稽古に餘念がない、サテ待たれた盆が來ると入相の鐘か太陽の西の山に押しこむのが待ち切れず晝のうちから心を踊らせる仲間を待ち合はせる、その日のいでたちは娘子軍は揃ひの浴衣を襷で絞り鈴をつけた手掩ひに脚絆、今宵ばかりは白いものさへはいて眞深い姐さん冠りの下から覗く鐵漿で染めた漆の齒はいふにいはいはれぬ優雅を秘める、男もやはり揃ひの浴衣、豆燈籠に灯がつくの合圖にピーヒョロ／＼と笛の音を流し六尺あまりの白い棒を携へた途あけを先頭に繰り込む『盆が來たのに踊らぬ奴は猫か、鼠か、お稻荷か』全くそのどほり見物人も時のたつに従つて浮かれ出し見る／＼踊りの輪は大きくなつてゆく、かうしてその佛の供養に四、五里界限を踊り明すのだからトテも豪氣だ。

◆かうした娘子軍の天赋そのまゝの純情と意氣とは曇つた日にさへバラソルをかざし東京辯と大阪辯のあいの子を使つてシャナリ／＼と思ひ入れ歩きする今時の娘サン達に見せたいくらゐ、もし雨でも降らうものなら大きに内庭のまん中に餅搗き臼を持ち出し咽喉自慢の男がその上にたつてきまり文句の『唄と調子のきまるまで、三味線三すじの絲調べ』と金切り聲を振り絞ると臼を中心に圓陣をつくつた踊り子が『サツサきまりこんだやほうごな』と調子を合せて夜の明けるのも知らずに踊り抜く唄の文

句は大抵地方にあつた情死ものや村の名を巧に取り入れたもので中には伊勢音頭や甚句もあつて樂天的な唄には身振りも活潑に哀調帯びたものは身振りを靜かにそれ／＼ソリを合はせて踊る、代表的のものを二、三書いて見る。

盆にや御座れよ、盆中にや御座れ、死んだほどけも盆にや來る。

因州因幡の新そばよりも妾しやあなたのそばがよい。

今夜こゝで寝て明日の晩はどこで明日は田の中〇〇〇〇〇

ゆこか參らんせうか米山薬師一つは身のためサ、主のため。

主のためなら米山さまへはだし參りも厭やせぬ。

頸城や見納め米山三里峠越ればサ、柏崎。(大朝)

この本を読まれたら趣味實益に富める兄弟分の

因 伯 表 と 裏

附各地の風習と言葉

發行

鳥取市大工町筋

横山書店

大家 山陰道の觀察 五拾五
水書は天下の才士如何に觀察せしや
 痛切に人情風俗産業を擧げて
 評述す

傳 因伯昔話 參拾五
鳥取の傳説を都て採りて
 今也

鳥取嶋根縣立中等 各學校入學試驗 問題集
附小學校教員檢定
 試驗問題併載

嗚呼奥田博士 貳円
送料十美

八頭郡史考 八十美
送料四美

氣高郡史考 八十美
送料四美

今古 因伯書畫家落款印譜 印刷中

今古 因伯書畫名人集 二十美
本書は古今因伯書畫其他大家の
 傳記を詳録す嗜好愛讀書にして
 座右必携の要なり

山陰道昔話 八美
送料二美

大正鳥取市全圖 十八美
送料二美

二百圓以上所有者 八頭鳥取地價表 五十美
送料四美

二百圓以上所有者 氣高岩美地價表 五十美
送料四美

壯烈二十士 再版 印刷中

因伯武士道之精華如何に若武士
 の活躍を天下に宣傳せり此の
 史料

鳥取縣案内 十美
送料四美

つゞり方 五美
送料二美

推茸栽培案内 五美
送料二美

改造世界地圖 十二美
送料二美

因幡人事興信錄 七円
送料二美

隨筆雪の降るまで 三十美
送料二美

八頭郡産業地圖 五十美
送料二美

圖書分類總目錄 十五美
送料二美

御注文傳送全に準じし後便宜
 上郵便切手代用取扱申す
 御要會は往復はかきにて申
 越被下存候

524

546

終